14.6=
277

昭和二年
昭和三年

雪害狀況調査

福井縣

0040252000

0040252-000

14．6ニ－277

雪害状況調査

福井県・編

福井県

昭和２－３年

昭和３

AGI

正誤

一三頁　一、二行中希薄トアルハ稀薄ノ誤植
三一頁　一一行上段立持村トアルハ立待村ノ誤植
四六頁　下欄九行目中生名にはトアルハ生命ノ誤植
五〇頁　九行目上段天律村トアルハ天津村ノ誤植
五七頁　四行目中（上ヨリ五欄目）何ヲトアルハ何レモノ誤植
六〇頁　六行目上欄鶉村年訓練所トアルヲ鶉村青年訓練所ト訂正

14.6=-277

目次

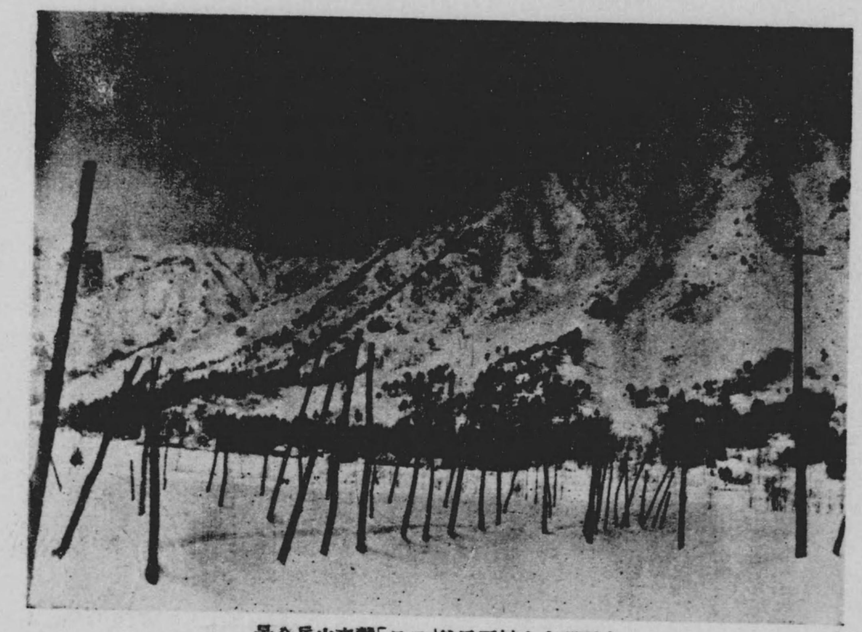
寫眞十二枚（「アワ」襲來現場）
一　總說……一
二　降雪狀況……二
三　被害狀況……九
四　救護狀況……一〇
五　「アワ」の正体……一一
A　正体……一一
B　傳說……一二
C　襲來の地点及地勢（見取圖參照）……一四
D　「アワ」のみに因る被害……一七
E　襲來の狀況及救護狀況……一八
六　交通機關の狀況……二二
七　生活必需品の狀況……二三
八　衛生狀況……二三
九　其他……二四
一〇　表彰……二四
一一　各種統計……二五

14.6=-277

目次

寫眞十二枚（「アワ」襲來現場）

一 總說……一
二 降雪狀況……二
三 被害狀況……九
四 救護狀況……一〇
五 「アワ」の正体……一一
A 正体……一一
B 傳說……一二
C 襲來の地点及地勢（見取圖參照）……一四
D 「アワ」のみに因る被害……一七
E 襲來の狀況及救護狀況……一八
六 交通機關の狀況……二二
七 生活必需品の狀況……二三
八 衛生狀況……二三
九 其他……二四
一〇 表彰……二四
一一 各種統計……二五



大野郡小山村下黒谷「ヲヲ」襲來山岳全景

大野郡小山村下黒谷　吉田米松方　土藏其ノ他ノ被害現場

大野郡小山村下黒谷　吉村岩吉方　被害及「アヲ」襲來線ノ状況

大野郡野向村横倉「アヲ」襲來山岳全景

大野郡小山村下黒谷　吉田米松方　被害及「アヲ」襲來路ノ模様

大野郡小山村下黒谷　千藤久太郎方　被害状況

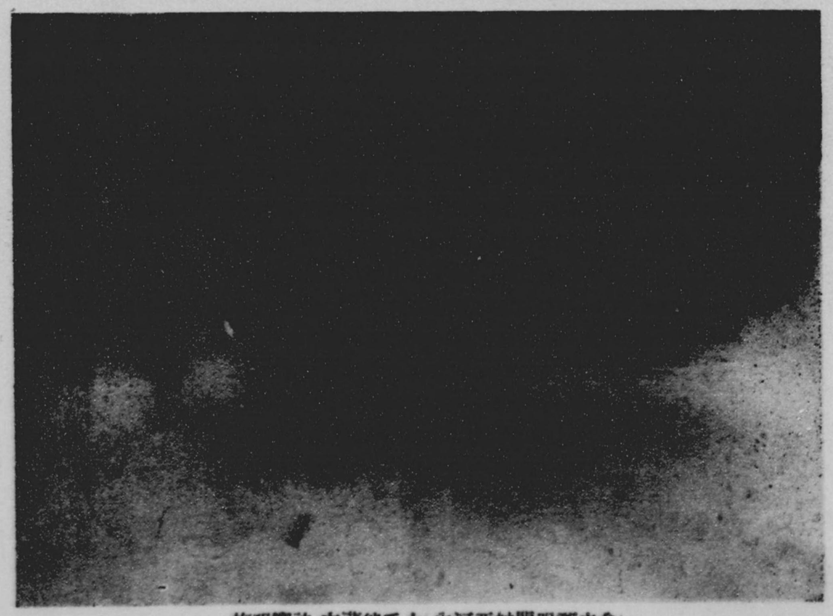
大野郡野向村横倉 北川玉次郎方 被害現場 （アワ襲來ノ模様）

大野郡乾側村牛ヶ原 橋原與次郎方 被害現場

大野郡野向村牛ヶ谷「アワ」襲來山岳全景

大野郡野向村牛ヶ谷 上山シン 外一戸倒壊現場

今立郡服間村西河内「ヲヲ」號來山岳全景



今立郡服間村西河内　大手德藏方　被害現場

昭和二、三年の雪

一　總　說

昭和二年の降雪は福井縣が有する記錄の上に於て未だ見ない大雪であつた。今福井縣が有する降雪の記錄を見るに、其の最大積雪量は大正六年十二月より大正七年二月に亘る五尺餘寸である。（福井縣史第三册に依る）尤も此の記錄は福井市の積雪の記錄であつて、縣下に於て最も積雪の大なる大野郡の記錄では無いのである。然し福井市を標準として見ても、大体に於て積雪の狀況は判明することゝ思ふ。

昭和二年の積雪は其の最大量が福井市六尺九寸である。大野郡は各村とも丈餘にして五箇村下穴馬村の如きは三丈に及んで居る。以上の如く昭和二年の降雪は記錄の上に於て未だ曾つて見ない大なるものが有つた。即ち死者五十四名、倒壞家屋二百七十棟と云ふ多大の被害を生ぜしめた原因の大部分は「アワ」であつた。

積雪の被害として倒壞家屋の數棟を出し、雪崩に依る死者の數名は例年の事であるが、昭和二年の如く五十餘名の死者を出したるが如き事は今迄記錄にもなく、又現に生存せる者にして、如斯被害のあつた事を知つて居る者も無い樣である。要するに昭和二年の雪は記錄の存する限りに於て未だ見ない大雪であり其の被害も有形無形に多大のものがあつたのである。

昭和三年の降雪狀況は昭和二年に比較すれば及ばざること尙遠しであるが然し平年に比して前年の後を亞ぐ記錄となるものである。

此の意味に於て昭和二年を主眼として二、三年の雪の狀況を記し將來の參考とすることゝせり、以つて將來降雪の場合に於ける雪害豫防其他に資せんとす。一体、福井縣の大雪は續けて二年降るものだと云ふ

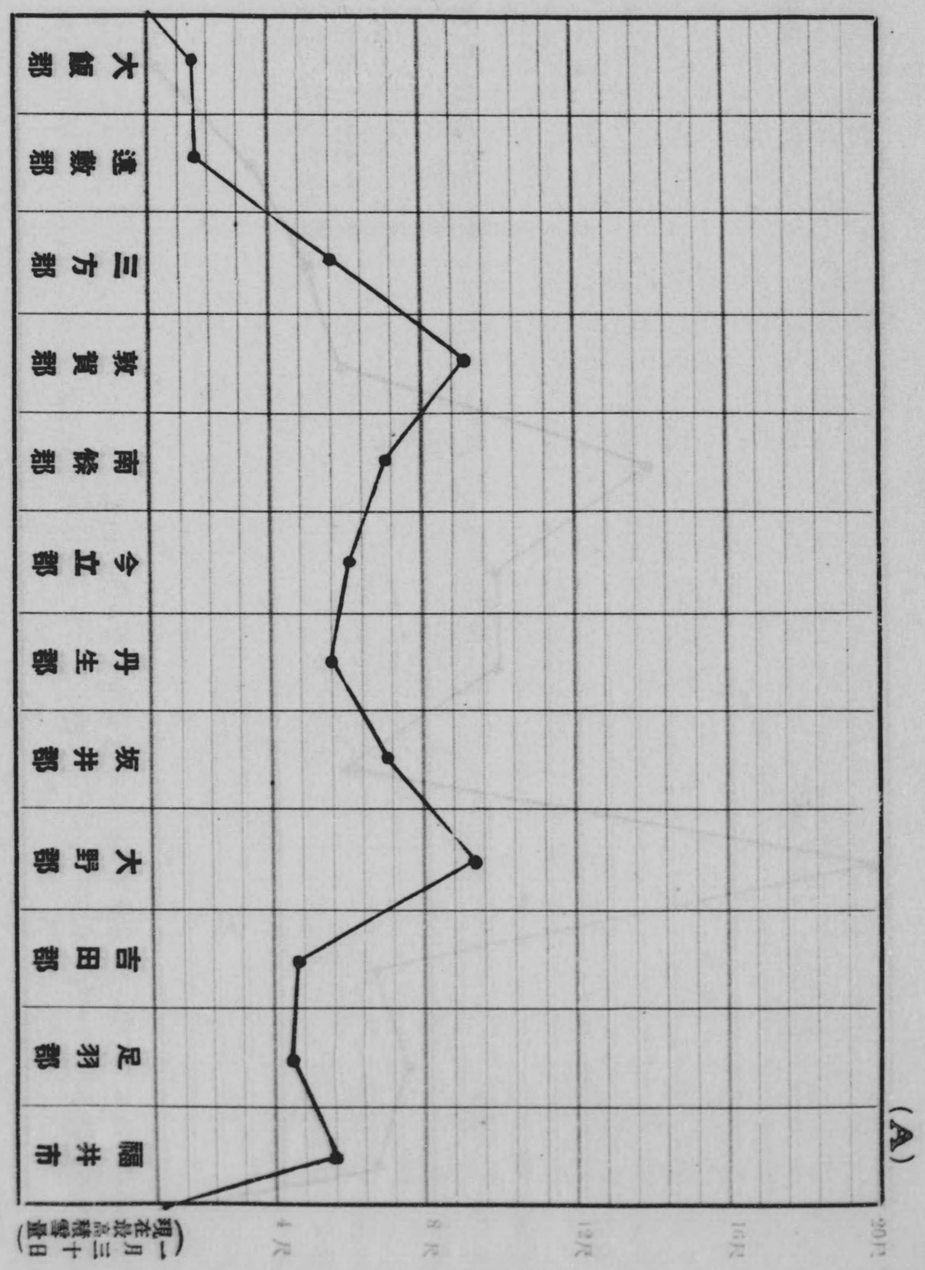
ことが言傳へられて居つた、で昭和三年も大雪であるかも知れないと云ふことは多くの人の念頭にあつた事であるが、幸にして大雪とならず此の程度に終つた事は幸福である。本書亦敢て昭和三年度の降雪を見て昭和二年の雪害を錄した次第である。

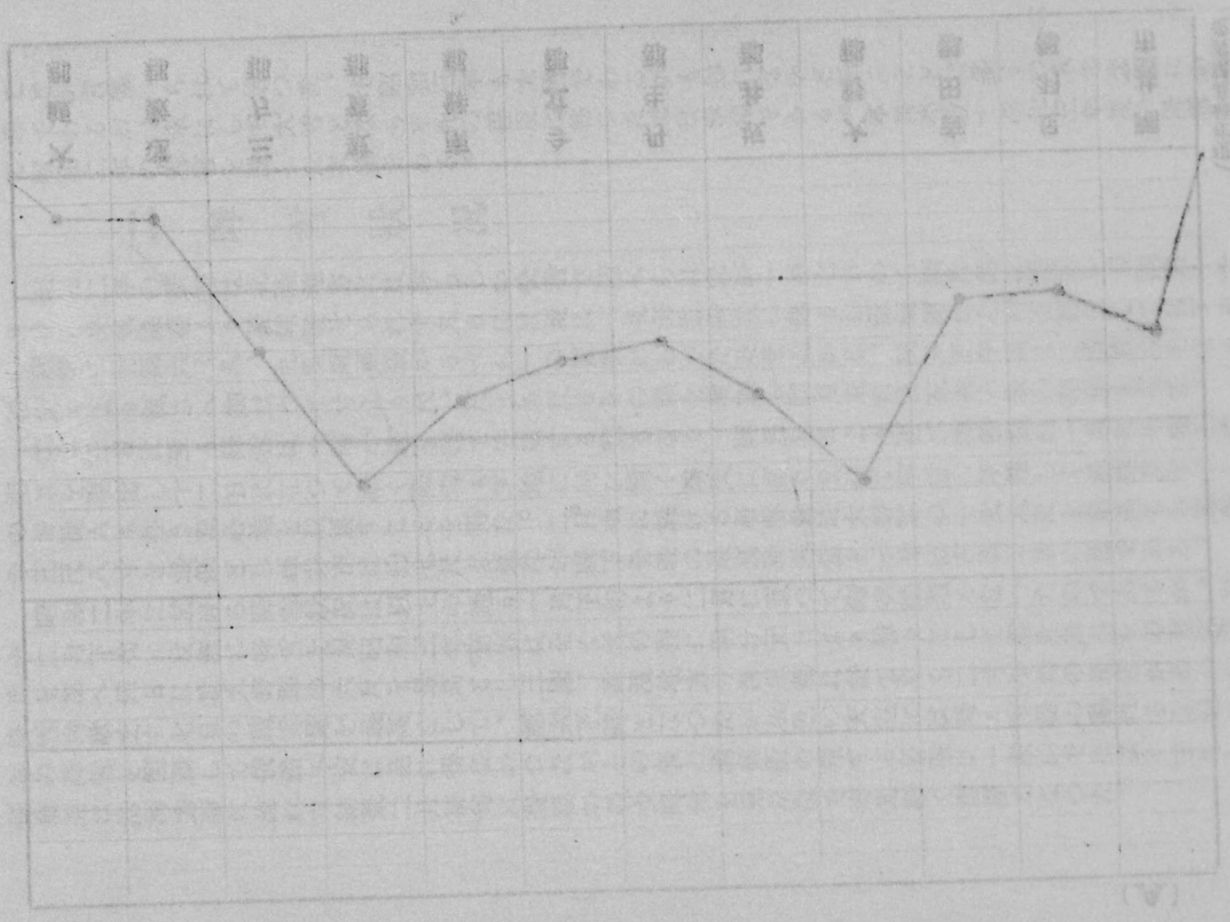
二　降雪狀況

昭和二年の新春は北陸地方には珍らしい快晴で迎へられたが一月七日から斷片的に降雪を見同月十六日には中央氣象臺より警報發せられ十九日には更に「北海道附近に起りし低氣壓は七四五粍にして目下東進の狀態に付第六、八、九區風雨强かるべし」の警報があつた果せるかな、同日正午頃より雪模樣となり夕暮近くより風さへ加はつて寸より尺、尺より尺とその量を增加し同月末には左表A表の積雪を見た。

二月三日に至り降雪は一時小康を得て安堵する間もなく、同月七日より再び雪粉亂れ一月にも增した猛烈さを現出し十二日になつて漸く降雪も下地に向ひ續く晴天に惠まれて解雪の度速しく過速度を示したので世人も生きた心地を取戻すことを得た。二月中に於ける積雪量は大野郡の一丈八尺を最高とし遠敷郡の三尺八寸を最低とし福井市は約七尺を見たが縣下全般の最高積雪量を示せば左表B表の通である。

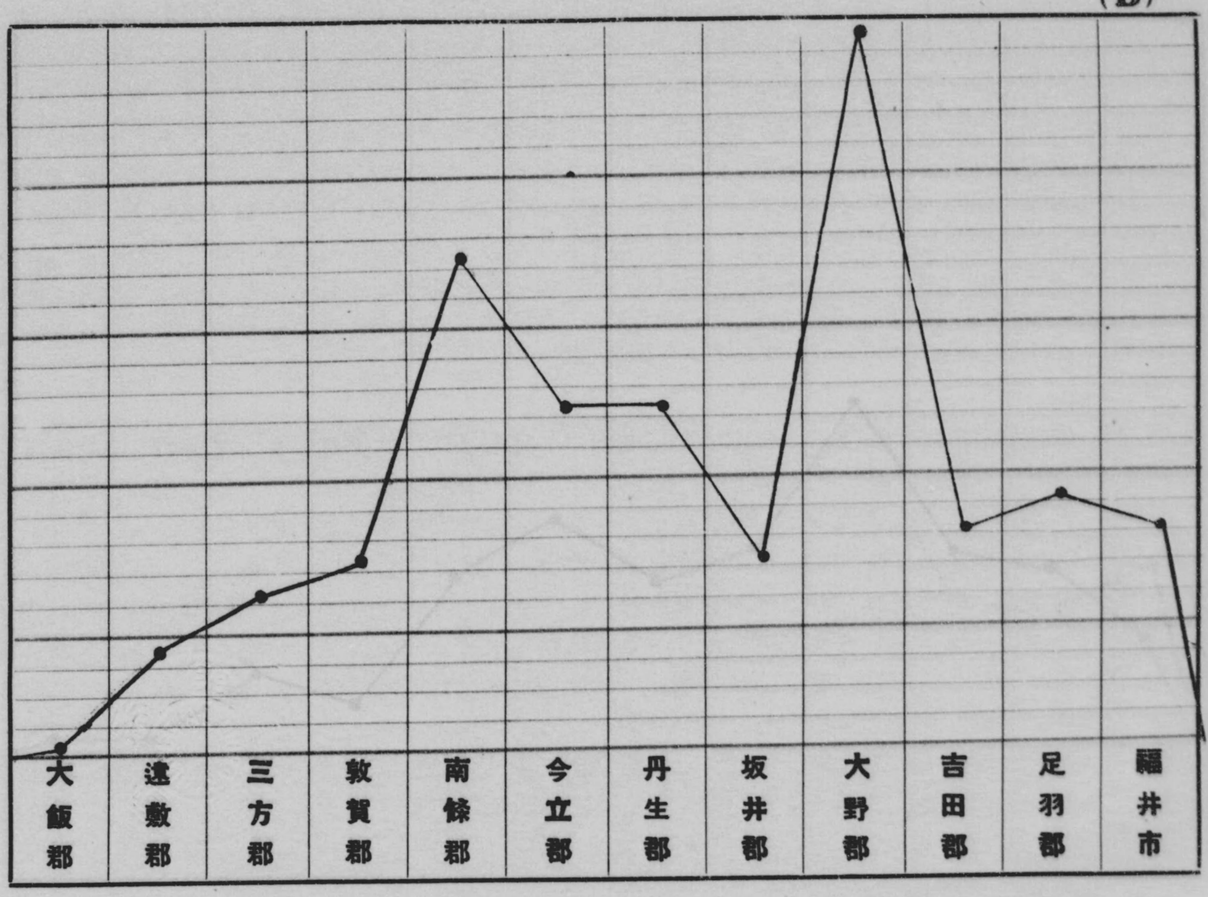
昭和二年に於ける降雪狀況は以上の通り一月下旬より二月に亘つて漸次熾烈となつたのであるが、同年十二月下旬には既に降雪を見昭和三年新春は全く雪の裡に明け元日より粉々として雪片舞ひその積雪逐日度を加へ四日には大野郡の六尺を最高とし三國、高濱地方の海岸部に於てすら二寸平均の積雪があつたが降雪尙歇まず七日の積雪量を最高として、漸次下降となつたが灰色の天空には時々雪粉の亂れるを見て昨年の降雪を回顧して俠然不安は免れ得なかつたがその後の測候所の報する警報は一般的ではなく主として低氣壓は沿海方面に流れた結果二月初旬に幾程かの少降雪を見た位で春光漸く濃厚となつた。

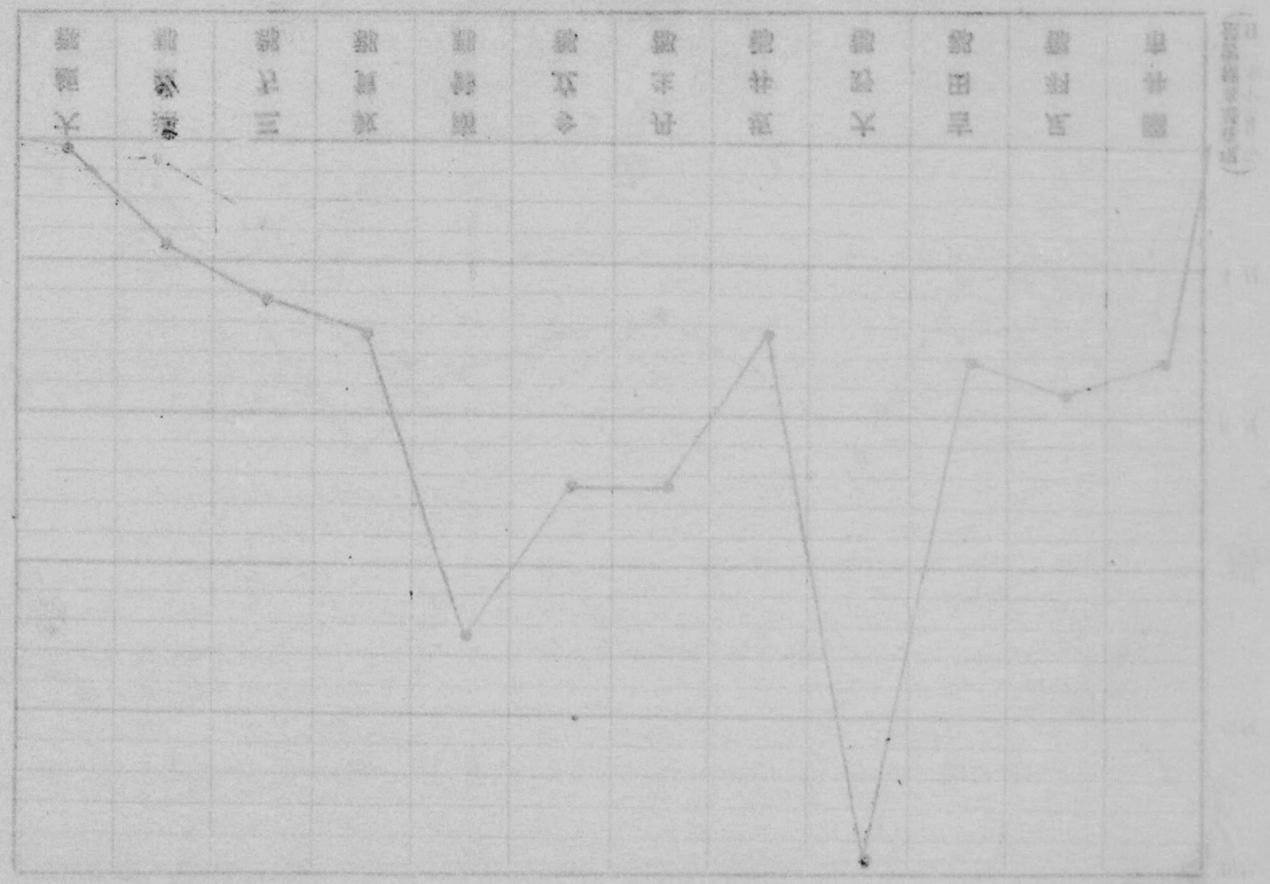



福井市
吉田郡
大野郡
坂井郡
丹生郡
今立郡
南條郡
敦賀郡
三方郡
遠敷郡
大飯郡

(A)

(B)


20尺
16尺
12尺
8尺
4尺
大飯郡
遠敷郡
三方郡
敦賀郡
南條郡
今立郡
丹生郡
坂井郡
大野郡
吉田郡
足羽郡
福井市
(二月十二日現在最高積雪量)


(C)
20尺
16尺
12尺
8尺
4尺
大飯郡
遠敷郡
三方郡
敦賀郡
南條郡
今立郡
丹生郡
坂井郡
大野郡
吉田郡
足羽郡
福井市
(一月七日現在最高積雪量)

以上の如く昭和三年の降雪は當地方としては敢て異數のものとは謂ひ難いが、之に反して昭和二年の降雪は大正七年の記錄を突破すること遙にして名狀することの出來ない混亂狀態を現出し一般民家は擧げて屋上除雪に赴々とするのみで商況は停鈍し電話は不通となり、交通は全く吐絶し小學校の休校は連續され何處に於ても路面の積雪は軒を沒し山間部に於ては家屋の堀出に努め市街地に於ては排雪作業に連日活氣を呈する奇現象に陷り二月七日より十二三日に至る數日の如きは特に悲慘な緊張を續け、一時は將來の豫測を許さない猛烈な降雪量に驚怖を感じ警戒をゆるめ得なかつたが十四、五日の快晴に惠まれて、漸く各方面の整備に一息することを得たのである。從つて、昭和二年には官公署は勿論民家は尠くとも三回以上多きは數回の屋上除雪を勵行したが昭和三年では一二回屋上除雪を履行した向もないではないが全體的には昭和二年の比ではなかつた。

三　被害狀況

昭和二年一月の初めからの降雪の狀況に鑑みて各警察署に訓達して屋上除雪と道路整理の督勵に努め注意警戒を怠らない裡にも、積雪の量は逐日增大し危險の度刻々に加はり來るに鑑みて、全般的に道路整理は第二と爲し專ら屋上除雪、危險地區の避難等最善の方法を講せしむる外特に學校、興業場、浴場、待合所、寺院等の如き多衆會合する場所柄に關しては數次屋上除却を實行せしめ尙危險の虞あるものに對しては、その使用を禁じ以て、危害防遏に全力を傾注したか遂に死者五十四名、傷者十名、倒壞建造物二百十、損壞建造物百九十一の被害（「アワ」に因るものを含む）を算し被害總額十七萬九千四百六十七圓を見た。

昭和二年の斯ふした甚大な被害を實驗した結果として昭和三年の積雪量はそれに比し遙く及ばざる時分より一般民家は自發的に屋上除雪を實施し一面其の都度排雪に努め將來の降雪に備へる等戰鬪準備を整へて秩序を保ちつゝあつたので山間部以外に於ては圓滑を欠く程度の交通阻害を見たに過ぎないが死者二名傷者一名、倒壞建造物十三、損壞建造物五の、被害を算し被害總額千五百圓余を見たのは遺憾であつた。

（別表被害調査表參照）

四 救護狀況

昭和三年に於ける被害としては救護を要する程度のものはなかつたが昭和二年の雪害は前記の如く未曾有であつたので、從つて之に對する救護方法は極めて眞劍味であり、被害發生地の居住民は急を知るや直に卒先現場に駈集り協力以つて救護に當るは勿論警鐘太鼓等を亂打して急を近隣に報することゝした。然し山間部に於ては丈餘の積雪と熄まざる降雪の爲村民の集合を意の如くならしめず加へて救護作業を阻害すること夥しく之に伴ふ困難は言語に絶し危險も亦一しほであつた、其中特に困難を感じた一例を擧ぐれば昭和二年二月九日午後二時頃大野郡上味見村河内水口谷と稱する山林より大雪泡襲來し人家八戸を倒壞し死者十三名を出した災害突發したる際の如き、當時積雪丈餘に達し尙盛に降りつゝあり。區民は寺院の梵鐘を亂打して他區民に急を告げんとしたが、交通全く吐絶して如何とも爲す事が出來ず、漸く翌十日に至りその隣區より駐在巡査は數十名を引具して現場に駈付け得たるも降雪は益々頻り交通甚だ危險であり被害現場より一里內外の村民等が辛ふじて往來し得た實情にあり、救護作業に及ぼす困苦は絶大なものがあつた。

元來同村は海拔二千數百尺の山嶽を以つて恰も屛風を樹て廻したような地形であつて、平常と雖、他村との交通困難を感ずる場所柄である況んや未曾有の大降雪の當時に在つては、右被害狀況を他に報導するに由なく同村駐在巡査は如何なる手段を講じても本署(大野警察署)に報告しようと焦慮し村長等と協議の上十二日朝に至り決死的人夫三十名を選拔して之に報告書を托し比較的安全であるべき地方へ迂回して出發せしめたが、約十五尺の積雪は忽ち先導人夫の全身を沒する狀態に加へて降雪は依然熄まず之が爲に人夫等は先途の危險を慮つて遂に拒絶することゝなつた、於茲是非なく同村消防組頭に對し依頼した處同人は直に之を快諾し、部僚消防士六名を隨ひ食料品携帶の上「カンジキ」を穿ち同日午前八時同地出發先づ進路を山の尾傳ひに隣村羽生村西俣高地に迂回して路程約五十町を五時間以上費して漸く平坦地に出で一路大野町に向け進行し午後四時三十分報告の使命を果した。胸部迄迫る積雪を排し自己の危險を犧牲にして報告の指命を果した事は救護作業中の美談である。

「アワ」發生に因る被害者の救護等に就ても危險困難に遭遇したことは右の事實に止まらないが詳細は「アワの正体」中に記述する。

昭和二年三年を通じて一般雪害の豫防に最善を盡すと共に一朝有事に際し消防機關の活動は全然不可能の狀態に陷るを慮つて、消防組員はもとより青年團、在鄉軍人の自發的活動に倚り喇筒の作業を可及的可能ならしむる樣各地方に適應する施設を講せしむ一面一般警火思想の振興を促して火防には特に萬全を期した結果、二三の出火を見た以外に、積雪の爲めの被害助長の事實を見なかつたのは幸ひであつた。

五 「アワ」の正体

昭和二年の雪害中殊に被害の夥しかつた「アワ」に就て類述せんに

A 正体

「アワ」に關しては說をなすもの區々であつて統一的根據を得ないが專門家の謂ふ所に據れば雪崩には表層雪崩、底雪崩の二別ありて前者は突發的であり後者は週期的に襲來するものであると表層雪崩を別して左の三種を擧げ得られる

1 乾粉雪雪崩
2 濕新雪雪崩
3 板狀雪雪崩

而して本縣下に於ける「アワ」と稱するは乾粉雪々崩に屬して比較的强度の傾斜地態に突發するを以て原則とする樣である、その發生狀況たるや根雪存する傾斜面に乾いた粉雪多量に堆積するとき些細なる微力でも之に加はらむか積雪相互間の摩擦力の平均を失ひ突發的雪崩の現象を起すものであるが勿論の

一点に此の自然的作用現はれんか其處に忽ち旋風と謂ふべき突風を生じ附近一帯の乾粉雪を捲き立て次々と漸次範圍を擴大して表層雪崩を誘發し延ては凄慘なる猛勢となつて一擧に山麓に襲來するものであるその勢力の衰へない途中で遭遇した樹木竹林建造物等は苦もなく倒壞又は破壞され瞬間にして慘憺たる危害を貽すを常態となし其の危險は實に想像圈外に在るものであるがその巾は大体異動なく區域より一間と隔てない地点と雖更に被害はない奇現象を呈する。

地方目撃者の談に依れば或る一方の谿谷に當つて異樣の音響を聞くや黒煙の如きものを見忽ちにして雪を伴ひ急劇なる速度を以て斜面に向ひ積雪の表層を流走し來り途中遭會せる樹木家屋類は瞬間にして薙ぎ倒され恰も積雪表面は氷河面に似たる壯觀を呈すと

如以上「アワ」は微妙なる加力の爲めの刹那的作用に基因する積雪上層に推積せる乾粉雪の「ナダレ」でわつて該粉雪は恰も砂煙の如く天空に舞ふ事あるに由り時に塵雪崩の稱を耳にする事があるなれども茲に注意すべきは「ハワ」と同視すべからざる一事であらう

「ハワ」は「アワ」と全然性質を異にし「雪庇」――山の背又は懸崖上の積雪にして風下の谷側に長く突出せる爲め庇の如くなれるもの」――又は樹木の梢より一片の雪塊落下せんか雪面を轉々としつゝある中に漸次その形体を增大し遂に一大雪塊となつて傾斜面の急なるに從つて落下の速度を增し加へて大なる震動を起し且突風を呼びて谿間全部の表層雪崩となり共に谿間又は山麓に墜下するものである、「アワ」は乾きし雪粉なるも「ハワ」は根雪の上層に推積せる新雪を以て主体をなすものである新雪には多少粘着性を有し小雪塊の轉々する中に大雪塊となり表層雪崩を誘發するものであるが如斯「ハワ」はその主体を大雪と爲すも「アワ」は然らざる点に差異を見出し得、蓋し山麓に襲來する狀態の類似することにより一般に兩者を混同視するの弊を培つたものと思料せらる。

「アワ」の原動力に關しては種々異說あるも要するに山の高低傾斜の度合、氣温、氣流、積雪量等に密接な關係を持ちて發生するものであるが斷定的定義と見るべきものは詳でない。但し本縣下に於ては高

さ百呎傾斜四十度以下の斜面地態に在りては比較的「アワ」發生の虞なく萬一發生するも危險の度亦希薄なりとは定評である。

B 傳說

「アワ」に關する傳說として統一的のものはないが、古老の談を基礎としてその地方的傳說として唱へらるゝものを一二擧げて見やう。

1　大野郡小山村下黒谷區地方では今日迄多量の降雪のあつた年でも雪崩は生じても被害を見た事實はない、然し照谷の峰筋にある觀音樣の岩石が雪で隱れると、雪崩が出るとは古來よりの傳說であつたが大正六、七年の大雪には隱れなかつた、然るに昭和二年二月一日迄には既に八尺余の積雪があり二日から天候は恢復し暖氣加はつて雨氣を含み爲に雪層は引締りの狀態を呈し加へて五日には温度著しく低下して積雪は凝結を呈した、六日からは降雪夥しく七日八日の降雪量は一町の道を歩むに一時間以上を要し笠を冠つて五間の道を歩み毎に笠の雪を拂はねば重くて歩行に苦痛を覺ゆる程の有樣であつた。

斯樣に降雪頻々として熄むことをしらず、遂に觀音樣の岩石は雪に沒することゝなり、區民は傳說を重んじて避難の準備中に二月八日午後六時に第一回の「アワ」の襲來を見、翌九日午後一時再び襲來を見た。

2　大野郡上味見村大字河内區地方は從來「アワ」の被害を被りたる記錄はないが古來からの傳說によるときは、黄蓮谷にある三ツの瀧の中第三第二の瀧が雪に隱れると「アワ」が生ずるものと傳へられて居た。

大正六七年の大雪には第二第三の瀧は隱れたが第一の瀧はそれ迄に及ばなかつたので雪崩の被害はなかつたのである、然るに昭和二年は二月八日の午後に至つて遂に第一の瀧は猛烈なる降雪の爲隱れて了つたので直に部落民集合して避難の協議を爲し九日には安全地帶に移轉することに一決した。さり

乍ら永住した住家を去るは人間の本能として一舉には去り難く漸く九日の晩には萬難を排して避難すべく夫々準備中の處突然九日午後二時頃に「アヲ」の襲來を見た。

C 襲來の個所及地勢（括弧ハ地勢）

（一）福井警察署管内

1 足羽郡上宇坂村東天田區
（四方海抜三百米の連峯に包圍されて何れも雪を以て蔽はされて居て美濃街道を前方に控へ足羽川上流に位す）

2 同 村境寺區
（北西は雪に蔽はれし海抜二百七十三米の山岳を負ひ足羽川上流に面す）

（二）大野警察署管内

1 大野郡五箇村上打波區地籍棚屋甲山嶽、同西勝原地籍荒谷山嶽
（棚屋甲山嶽は麓に二反歩余の田地ありてその山腰に三間四間の作小屋を存し春後は雜木繁茂せる山嶽である。
荒谷山嶽は海抜千六十米の荒島連峰であり西南は上庄村山林に西は富田村下唯野山林及九頭龍川を距てゝ坂谷村に對し而も山麓には美濃街道を横例へ同道路より山頂迄は約三百米を有し傾斜四十度附近雜木あり東北九十米五箇村西勝原區に達し道路上部二米大同電力株式會社の水潜小屋があつた）

2 同 郡小山村西端飯峰山山中照谷、大瀧谷、寢谷
（何れも海抜八百八十四米の飯峰山の南方に接續し山麓を去る百八十二米にして人家あり山脈は西方に眷び眺望に田圃を收める）

3 同 郡坂谷村經ヶ嶽、牛ヶ谷
（麓の北方に住家を見るが背後一帶は山嶽連接す）

4 同 郡上味見村河内區の東南
（黒谷山（海抜六百八十米）の俗稱水口谷と稱する所であつて上部に樹木鬱く雜木散在し急傾斜面を呈す、山麓は稍傾斜緩にして田地宅地等を存するものありて味見川に沿ふ）

5 同 郡下味見村西河原區地籍數古谷
（全くの山地にして稍鋭型を成し山麓に西河原區の人家を控へ南東に縣道及足羽川面す）

6 同 郡下庄村中野地籍八ッ壁八ッ谷山
（該山麓に二町歩位の山林を有するも他になし中腹より山頂に至る傾斜は極めて急である）

7 同 郡芦見村大谷區地籍三ッ岩山、西中區地籍蛇谷山、舟ヶ谷山、吉山區地籍吉山
（各山共雜木あるも粗。傾斜復急であり從來アヲ襲來の虞ある山嶽として警戒區域に屬して居た）

8 同 郡上穴馬村野尻地籍袖倉山
（高サ五米位を有して東西に延び樹木なく一体に草地）

9 同 郡下穴馬村朝日地籍コタラビ山
（急斜の山嶽であり樹木粗。山腰に住家一棟ありてその前面十間程の底地は田地と爲す）

10 同 郡西谷村中島地籍オホセ山專光寺背後山嶽
（頂上部に大木あるも粗。中腹は雜木多く山麓田畑に接し人家稀薄である）

11 同 郡上庄村下若生子地籍花カキ堂山
（高サ二百十二米余、中腹に雜林あるも他は草地にして樹木粗。山麓より約九十米を去り上若生子に通ずる縣道に接續す）

（三）勝山警察署管内

1 大野郡野向村牛ヶ谷

（極めて山間部落にして東南北に山岳を負ひ山麓を距る七十五米に小川貫流す）

2　同　郡野向村横倉
（東西北の三方は山を以て圍繞し山麓を距る五十八米に野津又川ありて傾斜緩ならず）

（四）栗田部警察署管内

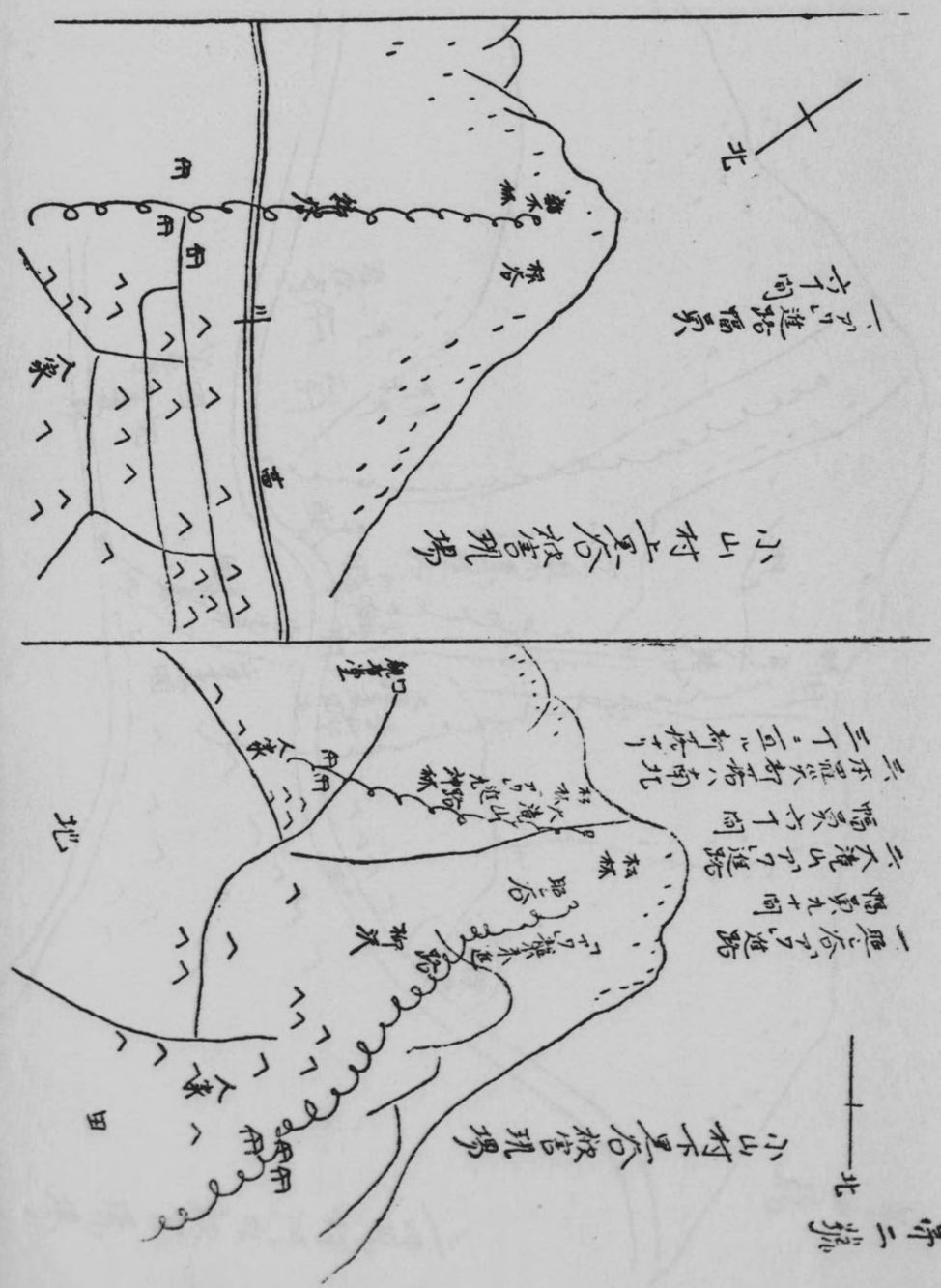
1　今立郡服間村西河内六十二大平谷
（服間村最東端部に位し上池田村に隣接し周圍は約三百四十米の山嶽を繞らす高配地帯である
附近山岳には杉松の如き喬木繁茂し居るも當該地域は灌木類に過ぎず十米乃至四十米を隔てゝ
人家点在す）

2　同　郡上池田村定方蔭平
（周圍は高さ四百米の蔭平南堂奥の三峰を以て圍繞し喬木なきも茅等の雜草は繁茂する。その
人家に至る二十三米間は曲折甚敷山麓には樹齢二十數年を見る杉木繁茂す）

3　同　郡上池田村魚見
（東方田畑に接續するの外雜草木密生の山嶽に圍繞されて居る）

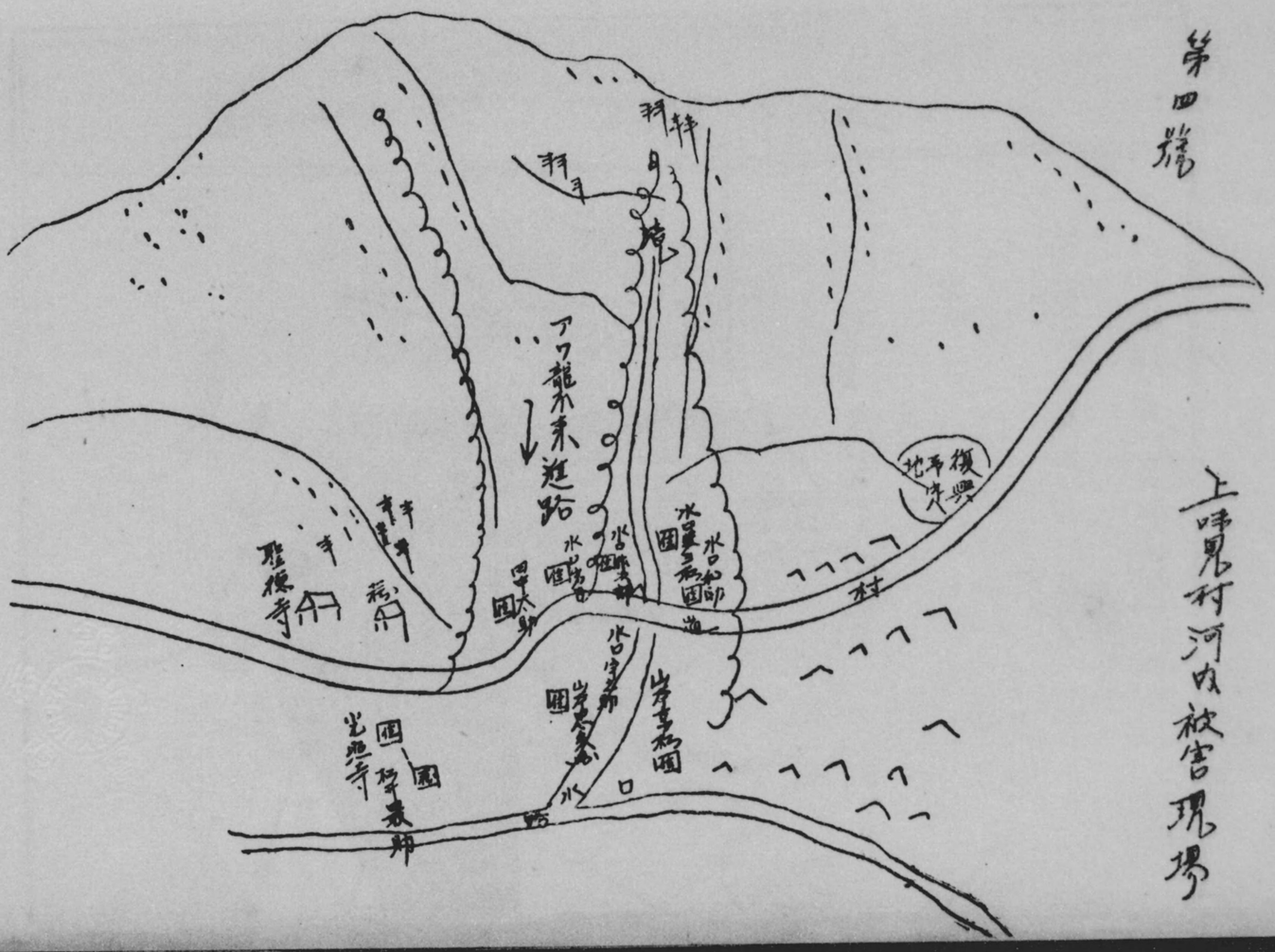
4　同　郡下池田村大本南西御殿屋敷
（高さ二百五十米の連峯を以て四圍を繞し急傾斜の地面なく山麓には杉松の繁茂を見二十米を
隔てゝ人家に達す）

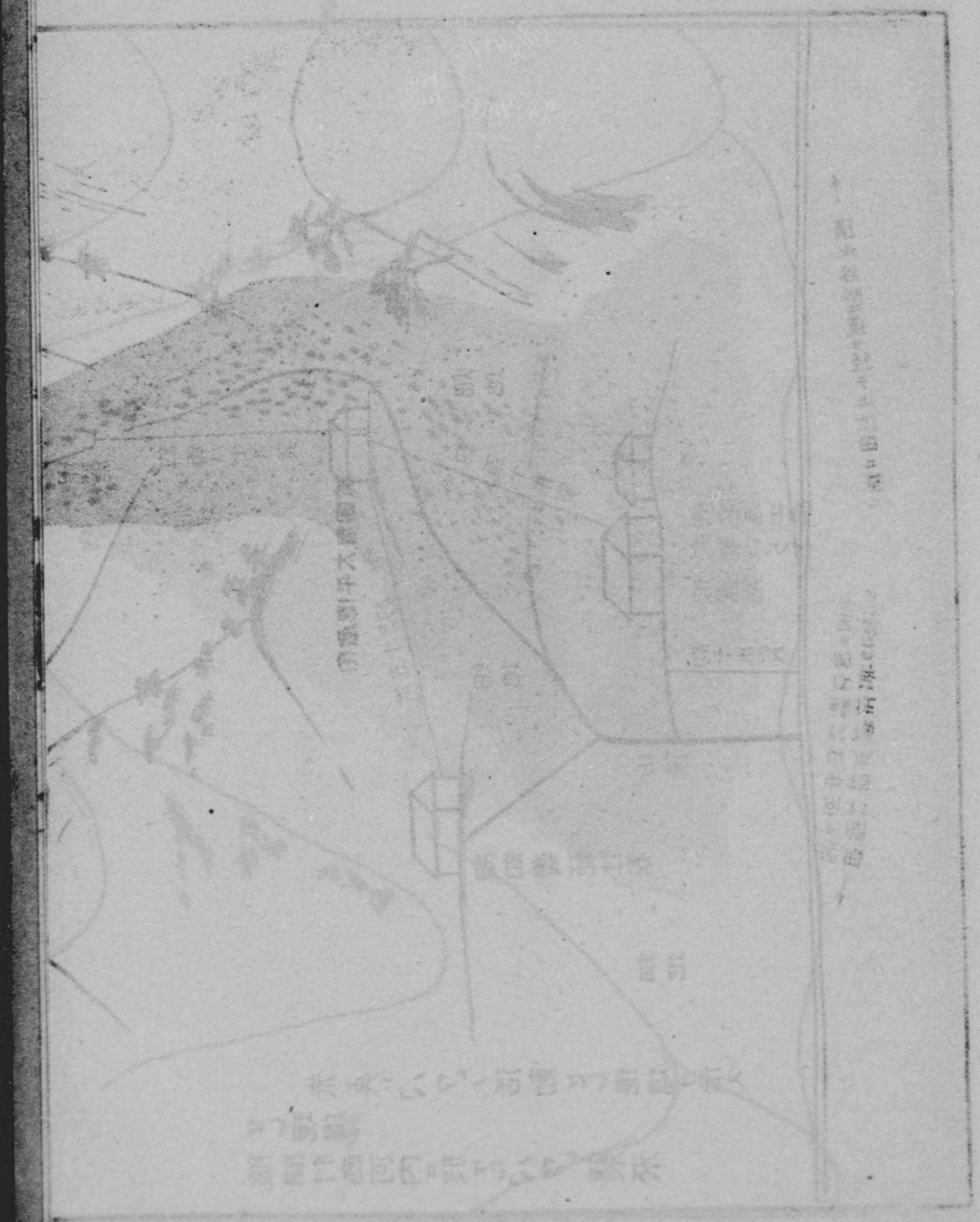
5　同　郡下池田村金見谷の東南南見土谷
（四方殆んど山岳にして喬木散見するあるも芝原大部分を占め田畑及巾一間の溪川を隔てゝ人
家わり）

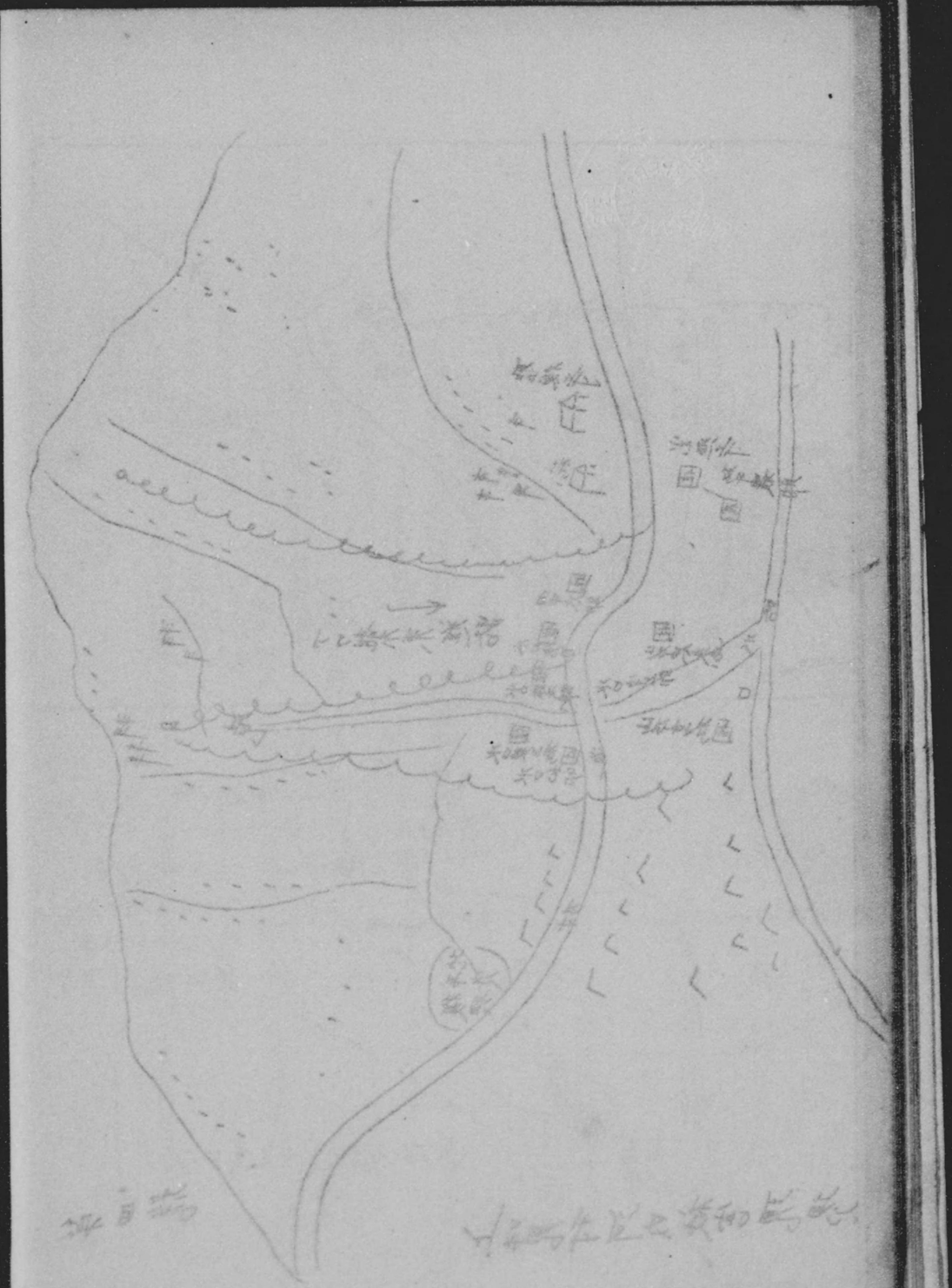


第四號

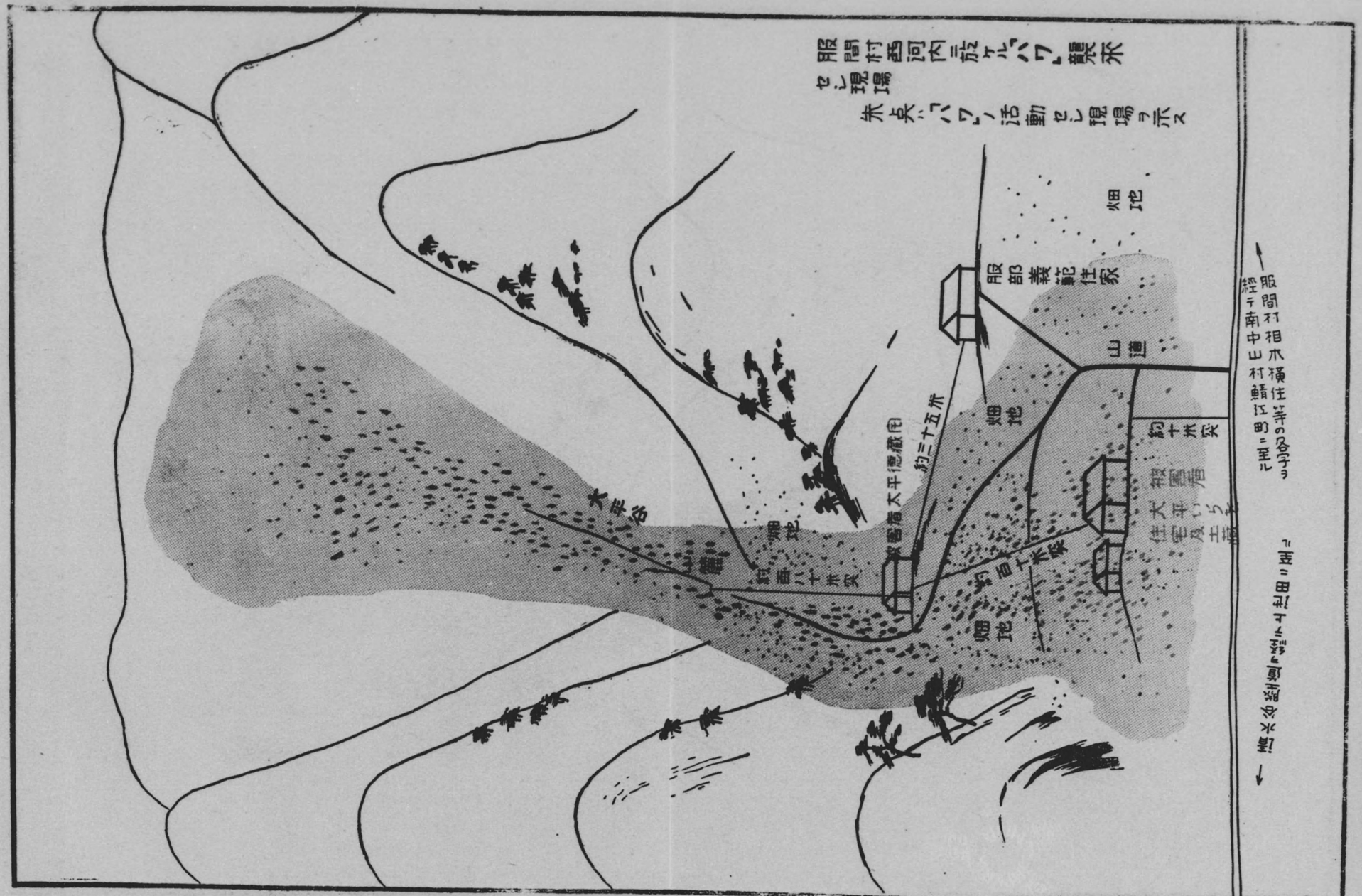
上味見村河内被害現場

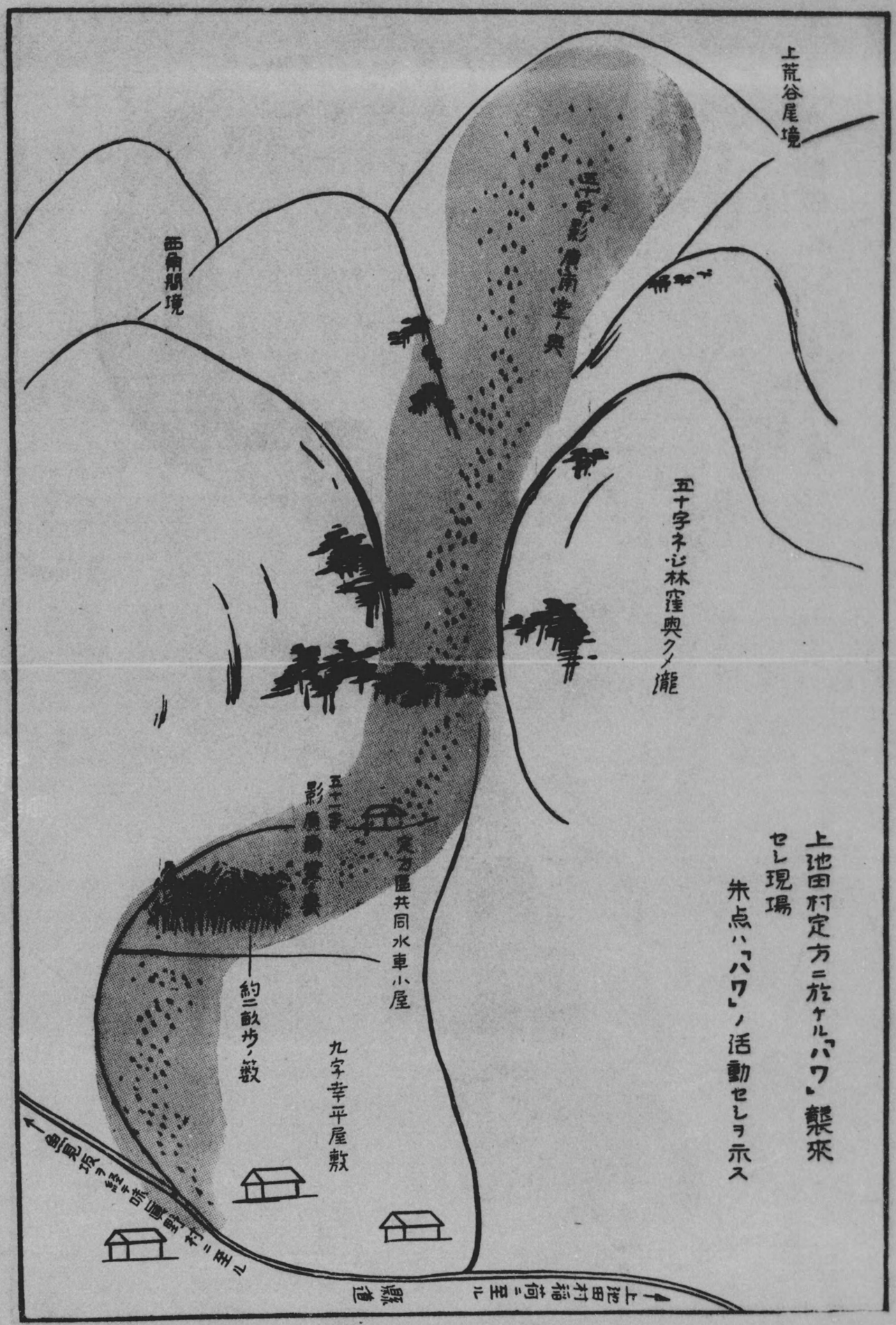




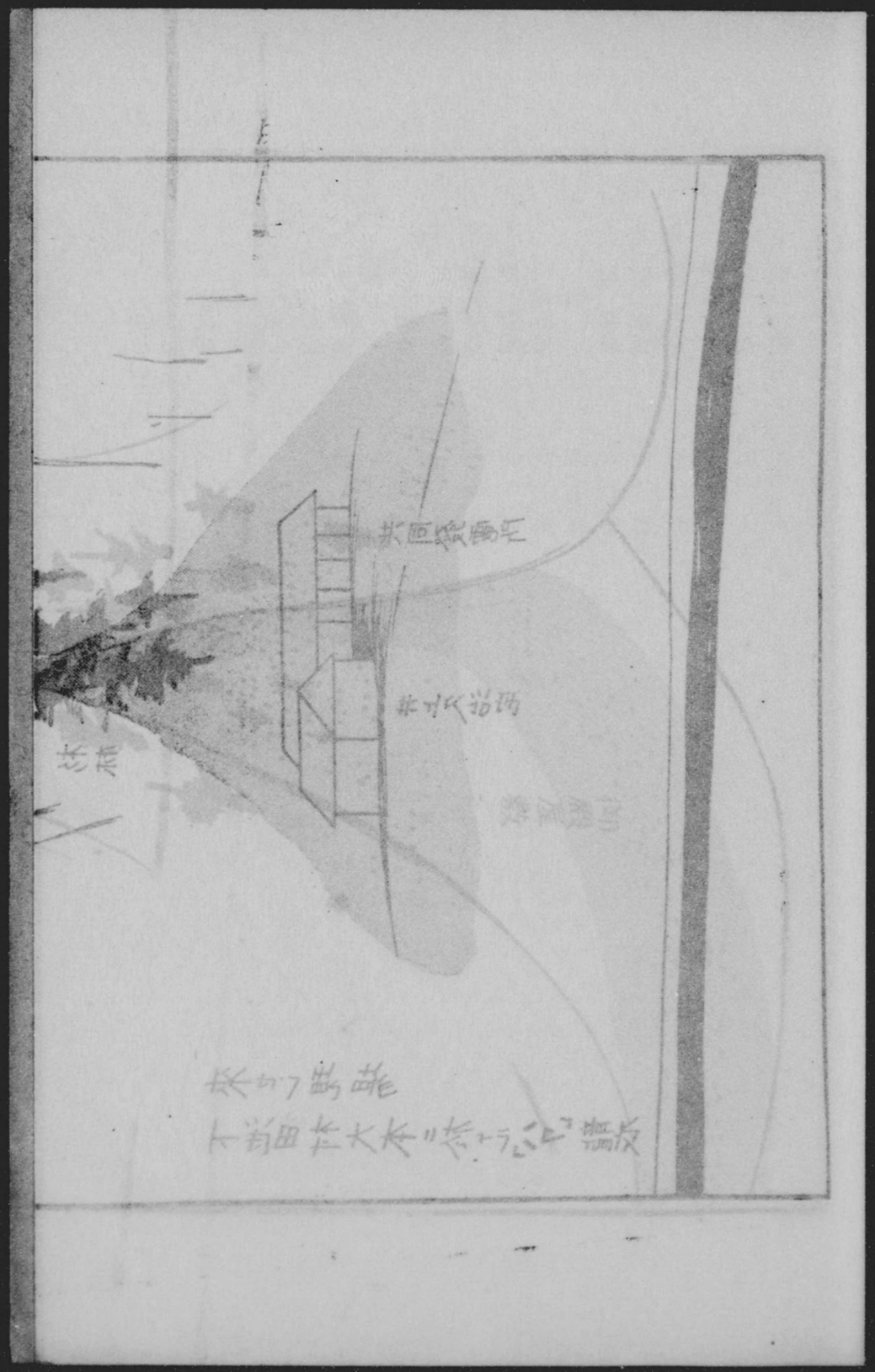


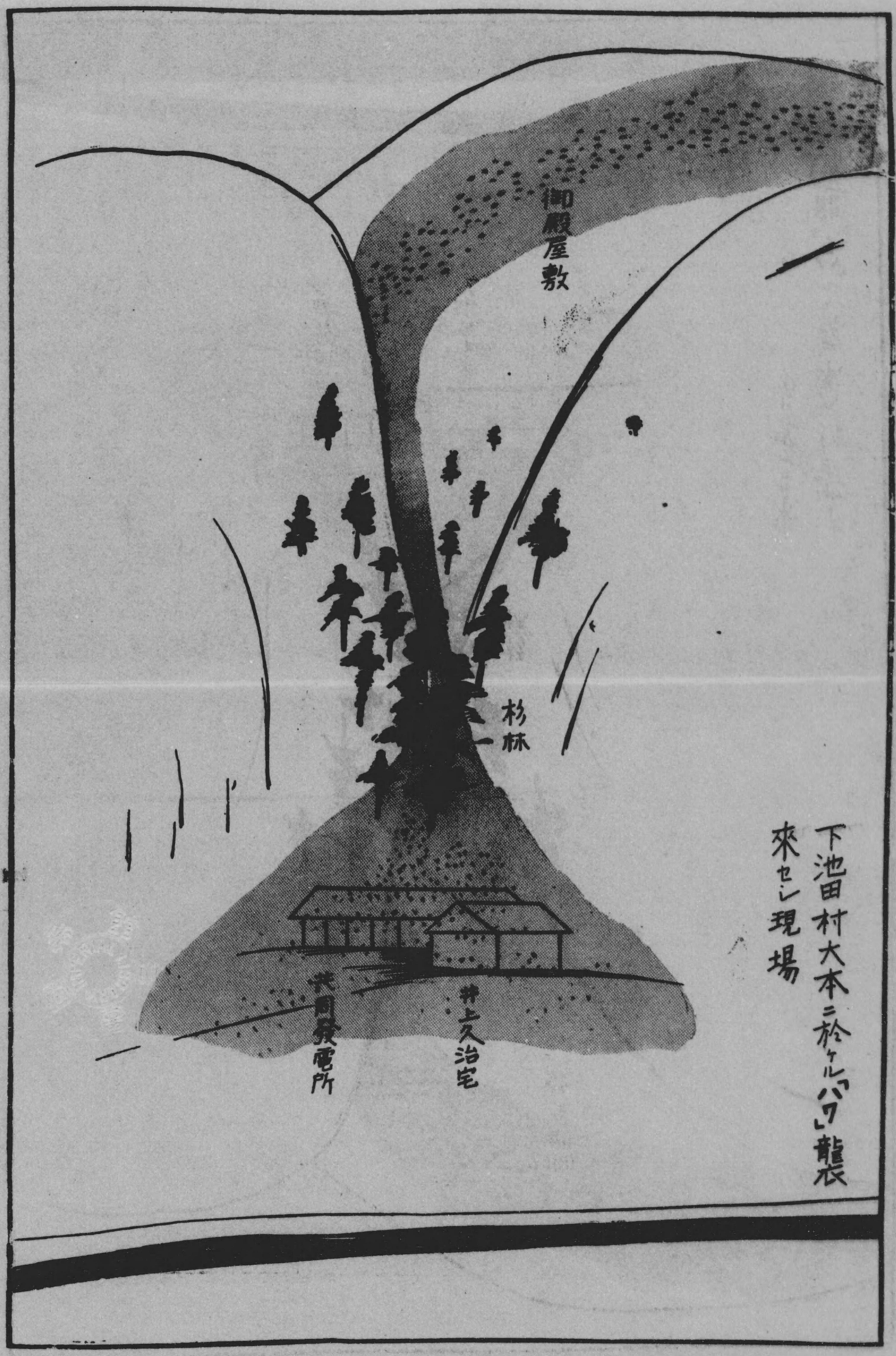
服間村西河内ニ於ケルハワイ農衆
ノ活動セシ現場ヲ示ス





上池田村定方ニ於ケル「ハワ」襲來セル現場
朱点ハ「ハワ」ノ活動セルヲ示ス





下池田村大本ニ於ケル「ハワ」龍卷
來セル現場

D 「アワ」のみに因る被害

1	死者	四十一人	
2	傷者	六人	
3	倒壊住家	二十六棟	
4	同土藏	十二棟	
5	同寺院	一棟	
6	同其他	六棟	
	計	四十五棟	
7	損壊住家	六棟	
8	同土藏	一棟	
9	同納屋	一棟	
10	同寺院	一棟	
11	同其他	一棟	
	計	十棟	
12	牛馬死	六頭	
1	住家損害	三萬三千三百八十圓	
2	土藏同	四千四百圓	
3	小屋同	千五百圓	
4	家具同	一萬四千〇九十圓	
5	寺院同	三百五圓	
6	火葬場同	八百圓	

7	毒瓦同	五百五圓
8	樹木竹瓦同	一萬三千八百三十圓
	計	六萬八千八百十圓

E 襲來の狀況及救護狀態

右被害の中激甚な事實及應急救護狀態を擧げて見よう（※印は救護狀態）

イ、大野郡小山村下黒谷區吉田米松妻はるは二月八日午後五時三十分頃自宅屋上の除雪中轟然たる音響を聞くや忽ち「アワ」襲來し屋根諸共約五十五米吹飛ばされたるも微傷だに受けず屋内に在りたる十一名は家屋倒壞と共に其の下敷と爲る、急を知りて區民集合するも人數尠く而も積雪一丈餘を算し加へて降雪紛々として尙歇まず爲めに救護作用に故障頻出し漸く救助し得たのは二名に過ぎず男三名女六名は遂に壓死す。

ロ、同村下黒谷區千藤久太郎の母よそは同月九日午後一時頃屋上除雪を終り屋内に入りたる刹那並に同區千藤榮松は自宅前便所小屋の除雪中何れも「アワ」襲來しよそは家屋倒壞の爲その下敷となり又榮松は突如吹飛ばされ雪の下敷となりたるも積雪丈餘にして降雪夥しき爲之が救助を得ず遂に壓死す之と同時に倒壞家屋二、土藏二を見た。

※二月九日午後一時頃右被害急報に接するや所轄大野警察署よりは直に警部補一名、巡査二名に人夫六名をして急護の爲現場に急行せしめたるも難路に加へて降雪頻りにして積雪丈餘交通杜絶の狀態にて危險甚敷到底强行進は不可能となり途中篠座より一旦歸署の止むなきに至り翌十日早朝より人夫四名を增員し救護に派したるも午後八時頃漸くにして小山村下舌に達したとは謂へ現場迄には未二十町餘の距離を有し如何とも方法を策する余地なく翌十一日は未明より村當局、消防組員區民等と協力一致救護に當らしめたが降雪尙猛烈を極め彌か上にも難事業たらしめたのは遺憾であつた

ハ、二月九日午後二時頃大野郡上味見村黒谷山（俗稱水口谷と稱す）の山嶽に大音響發するや（アワ）は忽ち山麓の田中太助方外八戸を埋沒し家人二十四名を其の下敷と爲す當日の降雪量三尺餘積雪一丈七尺餘同時に倒壞せる住家九棟土藏四棟を見る。

※之を知りたる區民は寺院梵鐘を乱打して急を告け駈付けたる者五十余名は時を移さず悲鳴を頼りに各埋沒家屋より人命の救助に全力を盡すと雖執拗な風雪は益々猛烈を極め作業を阻害する事甚大であつて辛ふして十一名の生存者を堀出し得たるも他は全部壓死を見る翌十日午後六時頃駐在所に急報達するや駐在巡査は急遽所在地の人夫五十名を引率現場に急行したるも前記壓死者を出したるが生存者に對しては安全地帶に避難せしめて善後策に腐心した。

ニ、二月九日午前九時頃大野郡芦見村大谷區地籍三ッ岩山上より突如（アワ）襲來し同區藤岡長松方住家一棟を倒壞しその下敷となりたる長松妻及孫二名の三名は即時駈付けたる區民に救助せられ生命に別狀なきを得た。

ホ、同日午後三時頃同地籍蛇谷山より襲來せる「アワ」は西中區森下金藏方を倒壞し瞬間同人及妻子六名は其の下敷となる。

ヘ、同日午後四時頃舟ケ谷山より襲來せる「アワ」は下吉山區佛敎道場を倒壞したが人畜に死傷なく吉山方面より襲來せる「アワ」は同區松田與太夫方住家一棟を倒壞し同人孫（當三年）を下敷と爲す、

※區民は梵鐘を乱打して急を告げ救護に當る一方報を得て駐在巡査は急遽現場に臨み村長、消防組青年團と協力して救護に努め安全地帶に避難せしめたが森下金藏妻私生子（當二十二年）は右手、胸部に火傷を受け後日死亡。當日降雪四尺積雪一丈二尺餘、交通一般に杜絶の狀況にあり。

ト、二月七日午後六時三十分頃大野郡下穴馬村朝日區山本喜之助は自宅屋上除雪を了して屋内に休憩中突然「アワ」襲來し家屋は無慘なる倒壞となり爲めに家族は其の下敷となる。

※悲鳴を聞き慘害を知りたる區民は直に之か救護を開始し朝日巡査部長派出所員は報を得て即時消防組員を召集し區民と協力罹災家屋の屋根を破壞し極力被害者の救助に當らしめたるも遂に死者一名

傷者二名を出した當日の降雪量六尺にして積雪一丈七尺に達し救護作用に及ぼす困難言語に絶し全員死力を盡して之に當ると共に危險區域住民は全部安全地帶に避難せしむる等大混乱狀態を現出すチ、二月九日午後三時頃大野郡野向村牛ヶ谷區に於て瞬間只人身に感する微風ありと思ふや突如「アワ」襲來して上山、村上の家屋二棟を倒壞其他三棟を半倒壞し土藏一棟を倒壞した恰も倒壞家屋内にありたる上山方女二、村上方女三は其の下敷となり無慘なる壓死を遂げ上山與平は重傷を負ひ駄馬一頭は吹飛ばされ而して前記倒壞の内一棟の屋根は十間、柱棟木は二十五間の距離に吹き飛ばされその慘狀見るに忍びず、

※アワ襲來の報あるや同村駐在巡査は即時役場と協商し消防組員を召集し埋沒家屋の除雪堀出に當らしめ一方傷者は直に醫師の治療を受けしめ其他在鄉軍人、青年團等も共同救護に努め其の一段落を告げたるは翌午後三時過當日の降雪量三尺五寸、積雪一丈三寸。

リ、大野郡野向村横倉は二月九日午後零時十三分頃であつて當時の降雪量二尺五寸積雪丈余あり「アワ」襲來の刹那は殆んど暴風に雪を交へたる樣な猛烈さで附近の者は兢々として全部屋外に避難をした、然るに漸く沈靜するに隨ひ北川玉次郎宅影を沒し居るを發見し區民六十餘名は總出場の上極力之か發堀に努めたるも北川玉次郎及長女、三男の三名は無慘なる壓死、妻は負傷を受く、

※急報に接するや時を移さず駐在巡査は村當局と共に醫師消防手を引具して現場に駈付け區民を督勵し發堀作業に努めたが折柄小兒の叫聲を耳にしその方向を堀鑿した處前記死者三名、傷者一名を發見す。

ヌ、今立郡服間村西河内大平谷は二月九日午後一時三十分積雪約一丈にして尙降雪霏々として猛烈を極ひ、時恰も大平谷山嶽より「アワ」突襲し音響を直感するや瞬間、俄然大平德藏、大平ひらをの二家屋を倒壞す爲めに屋内に在つた德藏その妻及六男の三名は壓死し同人五男及大平ひらを及同家同居者中村廣治の三名は重輕傷を負ひたるも辛ふして區民の救助を得た、

※「アワ」襲來の危急を知るや區長は直に太皷を乱打し區民を召集するも其の數少く附近々區の來援を需むる一方所轄栗田部警察署に急を報す、依つて直に巡査部長一名、巡査一名を選拔派遣せるも降雪尙頻りにして交通杜絶、而も夜中の爲進行意の如くならず、數時間を經て漸く現場に到着するや直に消防組青年團を督勵し死体發堀に努め一面危險地帶住民の避難に努む。

ル、今立郡上池田村定方地方は積雪丈餘にして降雪粉々として交通全く杜絶せるを以て同區陰平區民共有に係る水車小屋の屋上除雪に被雇の人夫さへ絶無の狀態にありたるを以て同區内藤吸太郎は長男綠を同伴仁俠的に該小屋屋上除雪中突如大旋風の襲來を直感したる瞬間附近一帶は粉雪濛々として白煙四邊の閉塞の現象を呈し區民は水車小屋の出火とさへ怪しんで居た。

「アワ」襲來するや該小屋は勿論一町を隔てた三畝歩の竹藪は原形を止めず破壞又は埋沒せられ谷は一面に高低の界なき平坦せる雪野原と化し吸太郎は雪に埋沒され綠は破壞せる水車小屋の下敷となり何れも壓死「アワ」は此の方面に止まらず約二町を距てた關甚太郎住家方面を襲ひ同人住宅を破壞し土藏を倒壞せるも幸に人畜に死傷を見ず。

※區民は急を知るや警鐘を乱打し近隣の應援を需めたが交通全く杜絶の爲隣區より之に應する者なく同區民のみを以て現場に集合徹宵死体發堀に極力盡したるも當夜は効を奏せず、翌十一日午前十一時頃に至り上荒谷區民二十餘名の援助を得て漸く同日午後二時に至り死体發鑿を得た。

ヲ、今立郡下池田村大本に襲來せしは二月九日午後六時頃にして積雪丈餘あり御殿屋敷と稱する山上より突如襲來せる「アワ」は繁茂せる杉林を一瞬にして突破し共同發電所及發電所勤務井上久治住宅を倒壞し形を止めず恰も在宅中の久治妻はその下敷となつたが危急を知りて駈付けたる區民により同夜十一時頃漸く救助せられたが他病併發の結果數日ならずして遂に死亡した。

六　交通機關の狀況

昭和二年の積雪に依る交通狀態を回顧すれば若狹三郡を除く地方全般に於ては一月八日頃から山間部方面の一般諸車の通行は不能となつたが其他の平坦地方は辛ふじて用を辨じ得る狀況に在つた、然るに雪は依然歇まず積雪逐日その量を增加するに從ひ漸次自動車、馬車等の交通は困難に陷り同月二十一日に至つては敦賀以北の縣下一圓に亘りて自動車、馬車、荷車、自轉車等の諸車は勿論全般的交通停止の狀態を現出し電車、汽車等は其の後發着時間を遲延して漸く運轉を繼續して居たが二月十日に至つて私設鐵道及軌道は悉く運轉不能となり唯、國有鐵道は一月二十五日午前四時より同三十一日午前七時迄の約七日間柳ヶ瀨隧道附近の障碍の爲徒歩連絡を以て辛ふして運轉を持續して居た此の間吹雪に基く雪中停車の事實一二發生したとは謂へ鐵道當局の努力に依り乘客其他に何等の被害なく、更に二月十二日午後四時より翌十三日午前四時迄大桐山中間に於て積雪の爲め一時不通となりたる事あるも他に大なる事故を發生せず、發着時間には時々紛更を示したが依然として運轉は繼續する事が出來たのである、二月十日より停止狀態に陷つた私設鐵道は同月十六日乃至十八日に於て運轉を開始した、一般道路は積雪と、屋上除雪の結果軒端を沒する有樣にして、到底交通の整理に當ること叶はず適宜踏みならして通行に便する程度に止め一般通行は下足履きを見ず、ゴム靴或は藁靴を用ひ運搬は橇によつてのみ僅に所用を便じつゝありたが、二月下旬、降雪漸く歇むで前記各種交通機關回復の後關係區民の總出動を促し各種團體員の協力の下に、幹線道路の雪割を勵行し全く、交通復舊の實を得たのは二旬の後であつた。

昭和三年の積雪に因る全交通機關停止の事實は幸ひなかつたが積雪最高の一月七日頃には省線の運轉經統は何等紛更を見ず私設鐵道は運轉不能に陷り、嶺南及沿海地方を除く地方一帶は自轉車、自動車等の通行は全然停止の狀態を現出した、交通整理も道路の雪割は第二として屋上除雪に主眼を置いた關係上一時亂れ勝ちに在つたが數日ならずして降雪下火となり一齊に雪割を督勵し市街地及幹線道路の交通機關は漸次

活動を開始し一般に被りし被害不便の程度は昭和二年に比して問題にならなかつた。

七　生活必需品の狀況

本縣に於ては毎年冬季間は相當の積雪あるを以て一般民家は之に備ふる爲積雪以前に生活必需品の準備を具へる風習があるばかりでなく、運延紛更の不同ありと雖省線鐵道は運轉を繼續して居る結果生活必需品の欠乏を見るが如き實狀は表はれなかつた。

然し昭和二年は近年に見ない大雪のことゝて、多少の物價騰貴は免れ得なかつたので爲念市街地に於ける米穀、野菜、鮮魚等の供給圓滑を計る爲、市町當局、商業會議所と協商し一方鐵道當局の援助を受けて、必要に應して他より適當の物貨を移入するに利便迅速なるを計畫し、一面物價の徒に騰貴するを抑制し此間に奸商をして暴利を貪るの餘地なからしむる意味に於て公設市場を利用して、隨時正常物價の發表により相當効果を收め得た。

八　衛生狀況

昭和三年中には何等衛生上の被害を見るものがなかつたが、昭和二年の積雪は殊の外夥しかつた結果市街地に於ける糞尿汲取の途絶ゐてその處置に困憊せる所尠くなかつたので福井市に於ては市の中心を松平侯爵家に置いて中心は一荷五十錢として順次四十錢、三十錢、二十錢の等差を別けて（市端は二十錢）接續農夫に請負はしめることゝなり其他は各自治体をして之が對策に努むるよう勸奬の末漸く適當の方法を講じて應急の措置を爲し得た外、福井市に於ける淨水飮料者は、一時その飮料を遮斷せられたる部分あるも近隣の水道を利用して困難を免れ、衞生的支障を來す事例は他に發見しなかつた。

九　其　他

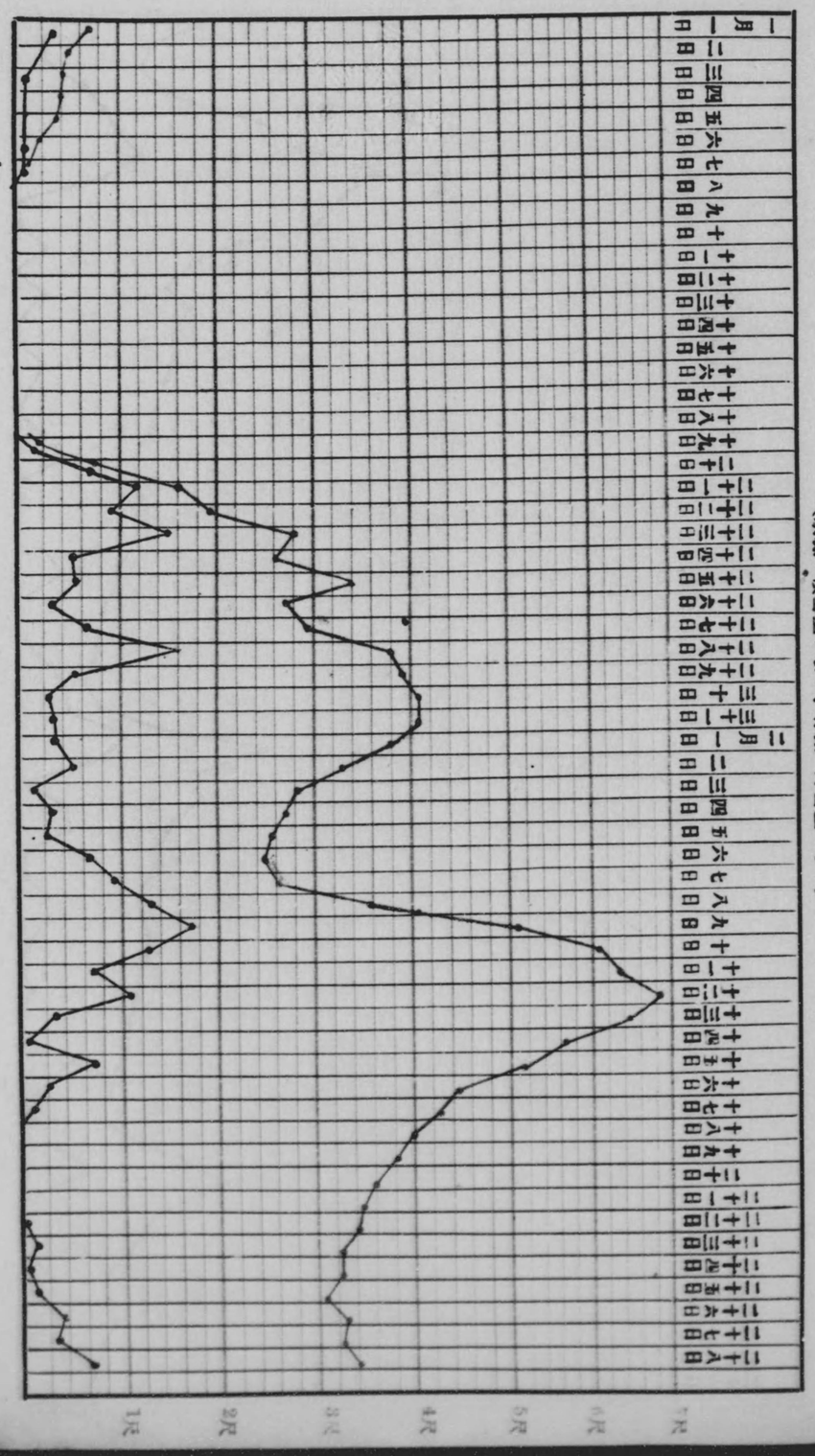
昭和二年の二月下旬に至つて積雪の解融甚しい結果として河川溝等は俄に増水し、各地に於て一時家屋の浸水あり、床上浸水二百四十一戸、床下浸水七百五十七戸を算し損害約三千四百圓餘となつたが挙げて排水に努めしめた爲幸に人畜には被害なく、大なる危害は見なかつた。

十　表　彰

以上の如く昭和二年は未曾有の大雪の爲、各方面に被つた危難は甚大であり、雪害、水害の防防救助に力を致したのは獨り晝夜の別なく奮闘した警察官に止まらず、軍隊、消防組、青年團、在鄉軍人等の各種團体又は個人的活動の眞劒さは誠に推賞に値あり。後日本縣知事から夫々感謝狀を呈してその勞を犒ひ永くその功を記錄されることゝなつた。

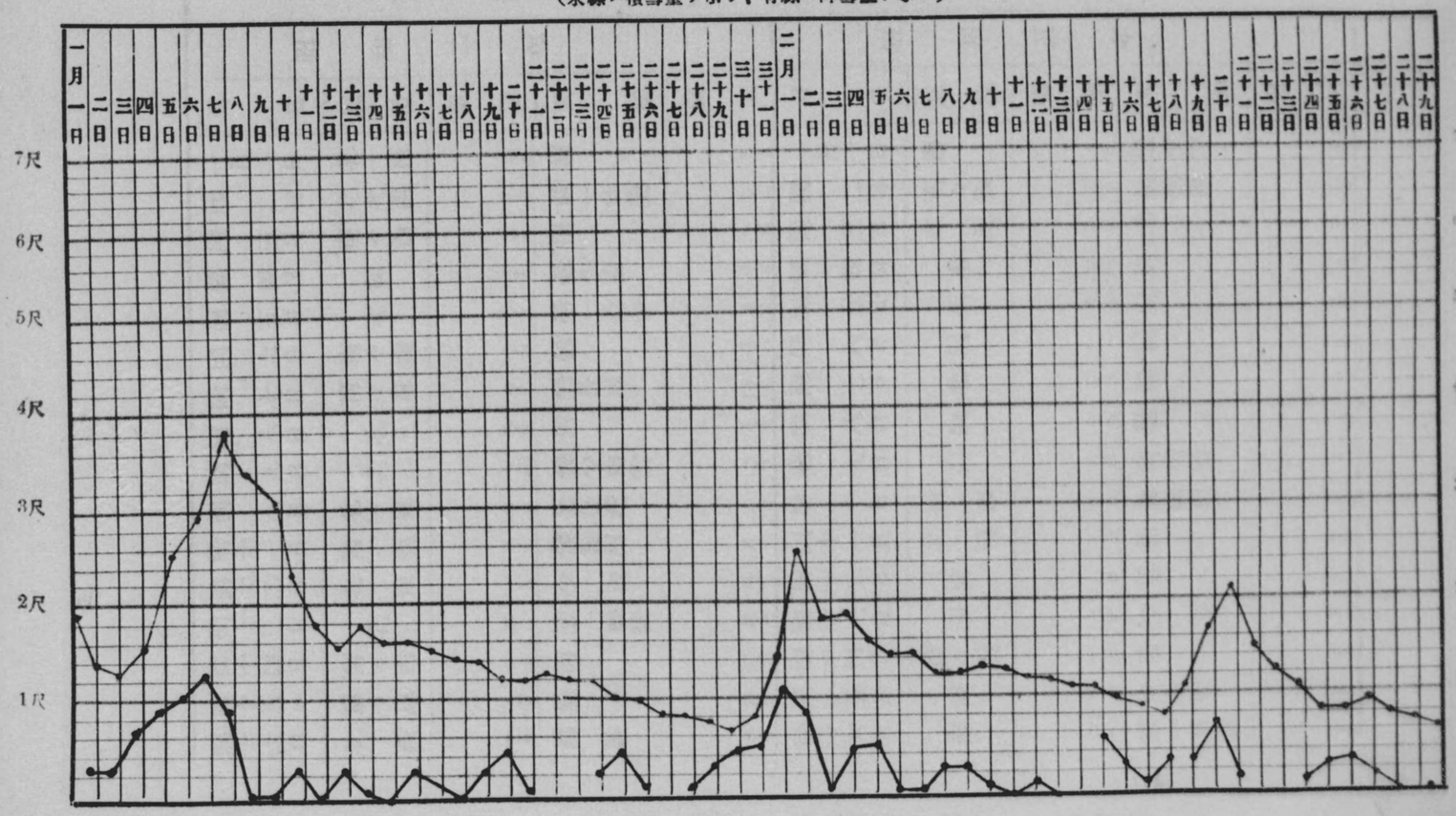
昭和二年一月二月中之福井市ニ於ケル積雪量並降雪量表

（朱線ハ積雪量ヲ示シ、青線ハ降雪量ヲ示ス）



昭和三年一月二月中之福井市ニ於ケル積雪量並降雪量表

（朱線ハ積雪量ヲ示シ、青線ハ降雪量ヲ示ス）



天候調査

昭和二年

月日	風位	風速	天候	氣温
一月一日	北西	三・五五	雨	三・七
同二日	北北西	三・〇三	晴一時曇	二・〇二
同三日	南々西	二・〇六	同	一・五
同四日	同	二・〇八	曇少雨	四・五
同五日	北	三・〇三	晴一時曇	五・二
同六日	南々西	二・七	曇	三・三
同七日	南々東	九・三	曇後雨	九・六
同八日	北	八・五	雨	八・七
同九日	北	七・四	曇少雨雪	一・〇
同十日	北々東	二・〇五	曇後晴	二・〇二
同十一日	南西	三・〇八	曇後雨	四・三
同十二日	北東	一・九	少雨	四・九
同十三日	北	四・〇一	曇一時晴	四・七
同十四日	南々西	三・三	同	二・七
同十五日	南々東	八・五	曇	八・八
同十六日	北西	一〇・四	雨霰	五・五

昭和三年

月日	風位	風速	天候	氣温
一月一日	南	一・四	曇少雪	二・三
同二日	南々西	三・〇	曇後雨	二・七
同三日	北西	二・六	雪	〇・六
同四日	南	〇・八	同	〇・四 (一)
同五日	同	〇・八	同	〇・三
同六日	同	一・二	同	〇・四 (一)
同七日	北	二・九	同	〇・二
同八日	同	〇・九	曇	〇・四 (一)
同九日	南	三・三	晴後曇	二・一
同十日	南西	一・九	曇微雨	七・五
同十一日	北西	二・三	雨	四・三
同十二日	同	二・四	雪	〇・六
同十三日	同	一・五	少雪	〇・五 (一)
同十四日	南々西	〇・七	晴	〇・七
同十五日	同	一・五	少雨霰	一・七
同十六日	南	二・二	晴一時曇	二・四

| | | |

同廿六日	北西	六・〇	少雨雪	二・六	同廿六日	南	一・二	曇	二・四
同廿七日	同	七・一	少雪	(一)(一)〇・四	同廿七日	北々西	二・一	曇少雨	二・〇
同廿八日	南々東	三・六	雪	一・七	同廿八日	南	〇・九	快晴	三・一
					同廿九日	南西	二・〇	曇	六・六

市町村別積雪量調

（昭和二年一月一日ヨリ同年二月二十日迄）

市町村別 ＼ 積雪	役場所在地 最大降雪量	役場所在地 最大積雪總量	市町村中最モ積雪量多カリシ地ノ最大積雪量	測候所々在地 最大降雪量	測候所々在地 最大積雪總量
福井市	一	一	一	尺 二・〇	尺 六・九
吉田郡					
松岡村	尺 二・五	尺 六・五	尺 六・五		
森田村	二・五	七・〇	七・〇		
河合村	一・九	六・〇	六・〇		
上志比村	三・〇	九・〇	九・〇		
下志比村	二・〇	六・五	六・五		
津法寺村	二・四	六・九	六・九		
五領ヶ島村	一・八	六・〇	六・〇		
志比谷村	五・二	九・七	一四・〇		

市町村別 ＼ 積雪	役場所在地 最大降雪量	役場所在地 最大積雪總量	市村町中最モ積雪量多カリシ地ノ最大積雪量	測候所々在地 最大降雪量	測候所々在地 最大積雪總量
吉野村	尺 二・〇	尺 七・〇	尺 七・〇		
岡保村	一・五	六・〇	六・〇		
東藤島村	三・三	八・〇	八・〇		
西藤嶋村	三・〇	八・〇	八・〇		
中藤島村	二・五	七・〇	七・〇		
圓山西村	一・八	六・〇	六・〇		
圓山東村	一・九	六・五	六・五		
足羽郡					
東郷村	四・〇	九・〇	九・〇		
和田村	三・〇	七・〇	七・〇		

東安居村	二・二	六・九	六・九	西谷村	六・〇	一八・〇	二〇・〇				
社村	三・五	八・〇	八・〇	上穴馬村	四・〇	一〇・〇	一二・〇				
酒生村	三・〇	八・〇	八・〇	下穴馬村	六・〇	一八・〇	二〇・〇				
上宇坂村	三・四	一二・〇	一二・〇	石徹白村	五・〇	一二・〇	一五・〇				
下宇坂村	三・二	一一・八	一二・〇	坂谷村	五・〇	一四・〇	一六・〇				
上文殊村	三・〇	八・〇	八・〇	五ヶ村	五・〇	一四・〇	二〇・〇				
下文殊村	二・五	八・〇	八・〇	上庄村	五・〇	一三・〇	一五・〇				
六條村	二・二	七・〇	七・〇	富田村	五・〇	一三・〇	一三・〇				
麻生津村	二・五	七・八	七・八	勝山町	三・五	一一・〇	一一・〇				
一乘谷村	四・〇	一〇・〇	一〇・〇	猪野瀬村	三・五	一一・〇	一二・五				
木田村	三・〇	八・〇	八・〇	平泉寺村	三・五	一二・〇	一四・〇				
大野郡				村岡村	三・五	一二・〇	一六・〇				
大野町	四・〇	一四・〇	一四・〇	野向村	三・五	一二・〇	一五・〇				
小山村	四・〇	一二・〇	一六・〇	北谷村	四・〇	一四・〇	二一・〇				
乾側村	五・〇	一四・〇	一五・〇	荒土村	三・六	一一・〇	一二・〇				
下庄村	四・〇	一〇・〇	一二・〇	北郷村	三・八	一一・〇	一五・〇				
羽生村	五・〇	一三・〇	一五・〇	鹿谷村	三・五	一二・〇	一二・〇				
声見村	五・〇	一三・〇	一四・〇	遅羽村	三・五	一一・〇	一一・〇				
上味見村	五・〇	一四・〇	一四・〇	坂井郡							
下味見村	四・五	一二・〇	一三・〇	丸岡町	二・五	六・三	六・五				

高椋村	三・〇	六・五	六・七
長畝村	三・〇	六・七	七・五
東十郷村	二・五	六・五	六・七
磯部村	三・三	六・八	九・二
坪江村	二・八	六・九	七・二
春江村	三・五	九・〇	一三・〇
劔岳村	三・三	六・五	七・〇
竹田村	四・五	九・〇	一三・〇
鳴鹿村	三・〇	八・五	九・〇
三國町	〇・八	三・三	三・五
金津町	一・五	四・八	四・八
芦原村	一・〇	四・〇	四・五
新保村	〇・七	三・五	三・五
雄島村	〇・七	三・三	三・五
濱四郷村	一・五	三・八	三・五
聚村	二・〇	四・五	五・三
大安寺村	二・八	五・五	五・五
鷹巣村	一・八	二・〇	四・五
本郷村	二・七	六・三	一二・〇
木部村	三・〇	六・〇	七・〇

大石村	三・〇	六・〇	七・五
兵庫村	二・〇	五・〇	五・〇
加戸村	一・五	四・五	七・〇
本荘村	二・〇	五・二	六・〇
北潟村	二・〇	四・〇	六・五
吉崎村	一・五	四・五	五・八
細呂木村	二・五	六・〇	六・〇
伊井村	一・五	五・三	七・五
竹田村	四・五	九・〇	一三・〇
劔岳村	三・三	六・五	七・〇
坪江村	二・八	六・九	七・二
春江村	三・五	九・〇	一三・〇
磯部村	三・三	六・八	九・二
東十郷村	二・五	六・五	六・七
長畝村	三・〇	六・七	七・五
高椋村	三・〇	六・五	六・七

大石村	三・〇	六・〇	七・五
兵庫村	二・〇	五・〇	五・〇
加戸村	一・五	四・五	七・〇
本荘村	二・〇	五・二	六・〇
北潟村	二・〇	四・〇	六・五
吉崎村	一・五	四・五	五・八
細呂木村	二・五	六・〇	六・〇
伊井村	一・五	五・三	七・五
大關村	二・〇	四・五	七・〇
鶉村	二・〇	四・三	五・〇
丹生郡			
朝日村	三・〇	七・五	八・〇
吉川村	二・〇	七・四	七・五
豊村	二・七	七・二	七・四
吉野村	二・七	七・二	七・二
天津村	二・五	七・四	八・〇
三ノ方村	二・二	六・〇	七・〇
西安居村	三・〇	七・一	一〇・〇
志津村	二・五	七・三	八・〇
糸生村	二・〇	八・〇	九・〇

殿下村	二・五	八・〇	一一・〇
越廼村	二・三	四・〇	四・八
下岬村	一・〇	四・〇	四・八
國見村	一・〇	二・五	六・〇
織田村	三・〇	九・七	九・七
常盤村	三・〇	八・〇	八・〇
荻野村	三・三	一〇・〇	一二・〇
四ヶ浦村	〇・九	四・五	六・〇
城崎村	二・〇	四・五	七・〇
宮崎村	三・〇	九・五	一一・〇
立持村	三・〇	八・五	九・〇
白山村	三・〇	一一・六	一二・〇
大虫村	二・八	一〇・〇	一〇・五
今立郡			
鯖江町	三・〇	九・〇	九・〇
舟津村	三・〇	九・〇	九・〇
神明村	三・〇	八・五	九・〇
新横江村	三・〇	八・五	九・〇
中河村	三・〇	八・五	九・〇
片上村	三・五	九・〇	一〇・〇

北中山村	四・〇	九・〇	一〇・〇
河和田村	四・〇	一〇・〇	一一・〇
粟田部町	三・五	九・〇	九・〇
岡本村	三・八	九・〇	一二・〇
服間村	三・八	一〇・〇	一三・〇
南中山村	三・五	九・〇	九・〇
北新庄村	三・〇	九・〇	九・〇
咲真野村	三・八	一一・〇	一一・〇
上池田村	四・〇	一二・〇	一二・〇
下池田村	四・〇	一二・〇	一二・〇
國高村	二・八	一〇・〇	一〇・〇
南條郡			
武生町	二・七	一〇・〇	一〇・〇
神山村	二・七	一〇・〇	一〇・五
王子保村	二・七	一〇・〇	一一・〇
南日野村	二・八	一〇・五	一一・五
南杣山村	二・八	一〇・五	一一・〇
北杣山村	二・九	一一・〇	一二・〇
今庄村	三・〇	一一・五	一二・〇
鹿蒜村	三・五	一二・五	一五・〇

| | | |

被害原因調（昭和三年）

被害別 / 原因別	人	畜	公共建物	住家	土藏	納屋	神社寺院	其ノ他	合計
崩雪	死 一	傷 一	倒壊	損壊	倒壊	損壊	倒壊	損壊	倒壊 損壊
屋根雪	人	人							
計	人 二	人 一	一	一	一	一	一	一	一 一
			六	六	四	四	四	四	五八〇 一、一六〇

市郡別被害數調（昭和二年分）

被害別 / 市郡別	人 死	人 傷	牛馬 死	牛馬 傷	公共建物 倒壊	公共建物 損壊	同上損害額	住家 倒壊	住家 損壊	藏納屋 倒壊	藏納屋 損壊	神社寺院 倒壊	神社寺院 損壊	其ノ他 倒壊	其ノ他 損壊	同上損害額	浸水戶數 床上	浸水戶數 床下	同上損害概額
福井市	一																		
吉田郡																			
足羽郡																			
大野郡																			
坂井郡																			
丹生郡																			
今立郡	六	二																	
南條郡	三	一																	
敎賀郡	一																		
三方郡																			
遠敷郡																			
大飯郡																			
計	人 五四		牛 一〇	馬 五	一四	一三	一、五〇〇	一三	一三	六七	八七	二五	一二	五四	二一	六	一六、八八五	六〇	五七 一、五二〇

市郡別被害數調（昭和三年分）

被害別 / 市郡別	人 死	人 傷	牛馬 死	牛馬 傷	公共建物 倒壊	公共建物 損壊	同上損害額	住家 倒壊	住家 損壊	藏納屋 倒壊	藏納屋 損壊	神社寺院 倒壊	神社寺院 損壊	其ノ他 倒壊	其ノ他 損壊	同上損害額	浸水戶數 床上	浸水戶數 床下	同上損害概額
福井市	一																		
吉田郡																			
足羽郡																			
大野郡																			
坂井郡																			
丹生郡																			

月日別被害數調（昭和二年）

月日別 ＼ 被害別	人畜 死	人畜 傷	公共建物 倒壊	住家 倒壊	住家 損壊	倉庫 倒壊	倉庫 損壊	神社寺院 倒壊	神社寺院 損壊	其ノ他 倒壊	其ノ他 損壊	合計 倒壊	合計 損壊
一月九日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
二月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
三月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
四月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
五月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
六月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
七月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
八月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
九月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
十月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
十一月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
十二月一日													
同二日													
同三日													
同四日													
同五日													
同六日													
同七日													
同八日													
同九日													
同十日													
同十一日													
同十二日													
同十三日													
同十四日													
同十五日													
同十六日													
同十七日													
同十八日													
同十九日													
同廿日													
同廿一日													
同廿二日													
同廿三日													
同廿四日													
同廿五日													
同廿六日													
同廿七日													
同廿八日													
同廿九日													
同卅日													
同卅一日													
計													

| 同廿四日 | | |

	足羽郡合計	大野郡大野町	小山村	乾側村	下庄村	上庄村	坂谷村	西谷村	上味見村	下味見村	芦見村	五ヶ村	下穴馬村	石徹白村	勝山町	猪野瀬村	平泉寺村	村岡村	野向村
人	一	二																	
牛	一	二	一	二					三										八
馬																			
戸	一																		
人	一一																		
牛	三																		
馬																			
戸	三																		
人	一六五		一〇〇						五〇〇							五〇	四〇		四〇〇
牛	三																		
馬																			
戸	六																		
人	一																		
牛																			
馬																			
戸	一																		
人	三																		
牛																			
馬																			
戸	四																		
人	二																		
牛	一																		
馬																			
戸	四																		
人	二一四五		一〇〇																
牛	一																		
馬																			
戸	九		二〇																
人	一〇		一〇〇																
牛																			
馬																			
戸																			
人		

| | | |

教賀郡合計	三方郡村	十村	西田村	北西郷村	南西郷村	耳山村	三方郡東村	三方郡合計	小濱敦賀郡	西津資町	園富村	今富村	遠敷郡合計	大飯郡	總計
一															八五四
六	一														一〇
一															一四
三	一														三七八
七	一	一	一	一	一	一	一	三							六〇
一四															一四
一三															一三
一三															一三
一三															一三
一三															一三
一三															一三
一四															一四
一四															一四
一四															一四

被害日時	被害場所	被害概要
二月七日 午前 五時二十分	南條郡王子保村 山口須間吉	戸主須間吉は本月五日頃より不在中にして當夜同家の屋上の積雪五尺余に達したる爲め其の重量に堪へ兼ね妻及子供三名就寢中俄然倒壊したるを五時三十分附近の人民發見して直に堀り出したが母及一名の子供は既に壓死し居り殘り、二名共直に村民の救護を受けたるも一名は六時に至つて死亡し、一名は生命に別狀なきを得た。
二月八日 午後 五時三十分	大野郡小山村 下里谷 吉田末松	當家後方の山腹より「アワ」と稱する崩雪襲來し、家屋を壓倒し同家の家族及同居人等十一名生埋となりたるに付、直に附近の者が二十數名駈付け(青年團員、消防組員等も含む)四名を堀り出したるも既に二名は壓死し居りて、他の二名は辛して其の生名には別狀なく、次いで三名の死体を堀り出したが、九日再び「アワ」襲來したる爲め一時中止し十日には警察當局、村長、消防組頭協商の上堀出人夫を增員せんと計畫したが同村は青年、壯年等の多くは他に出稼きし居る爲め多數の人夫を募ること能はず約百名の人夫をして堀り出しに努めたる結果十三日迄に九名壓死したる中八名の死体は堀り出すことを得たるも、其の殘り一名の死体は發見することを得なかつた。
二月九日 午前 二時三十分	丹生郡殿下村 武周 西雲寺	被害前日屋上の除雪に着手したるも夜中となりたるに付、中途にて止め一家就寢したる處、夜中俄然住家倒壞したる物音に倉庫に就寢中の養父が目を覺まし、警鐘を亂打し救ひを求めたるに村民直に駈け來りて堀り出したるも六名共既に壓死す。
二月九日 午後 零時	大野郡野向村 岩ヶ野 北川初次郎	當家後方の山腹より「アワ」と稱する崩雪襲來し家屋を壓倒し同家の家族其の下敷となりたる爲め、同村駐在巡査は直に區民を督し應急堀り出しに努めたるも、三名共既に壓死す。
二月九日 午後 一時三十分	今立郡服間村 西河内 大平德藏	當時猛烈なる一大旋風の爲め同家後方の山腹より巾五十米の崩雪襲來し住家壓倒せられ、一家四名は其の下敷となりたるも直に駈け付けたる消防組員等に依り堀り出されたが一名のみは輕傷を負ひたるのみにて生命に別狀なく三名は壓死す。
二月九日 午後 二時	大野郡上味見村河内	河内區は戸數八十戸人口四百六十名よりなり、下味見村中最も山奥にして古來大雪に際しては「アワ」襲來する事例あるに付、今年も其の襲來を虞れ區民は避難せんとて準備中俄然「アワ」襲來し住家八戸を壓倒し十三名其の下敷となり壓死したるが大野署よりは右急報により十三日署員を派し十五日迄に全部の死体を堀り出すことを得た。
二月九日 午後 二時三十分	大野郡野向村 牛ヶ谷村 上伊三郎 上山シン	上記兩名家屋後方の山腹より「アワ」と稱する崩雪襲來し各住家を壓倒し家人六名は其の下敷となりたる爲め、同村駐在巡査は直に區民と共に堀り出しに努めたるが何れも壓死す。

二月九日午後四時	大野郡小山村下黒谷	吉村岩吉
二月九日午後四時	大野郡乾測村牛ヶ原	松原與次郎

當家は前項記載の吉田末松方の階近で第二回の「アワ」襲來に因り住家を壓倒し家族二名其の下敷となり壓死し、死体は全部發見することとを得た。

當家後方の山腹より「アワ」と稱する崩雪襲來し住家を壓倒し家人二名其の下敷となつた爲め、同村駐在巡査は直に區民を督し堀り出しに努めたが、何れも壓死し死体は全部發見することを得た。

雪害功勞者トシテ表彰セラレタル個人

足羽郡社村加茂河原	竹内長四郎	
同	大久保次三郎	
同	竹内正次	
同	山田武志	
同	林春吉	
同	酒生村栂野	島田新松
同	下宇坂村高田	長谷川與三松
同	村小和清水	大谷靜馬
同	東郷消防組第一部消防手	仁階藏仙吉
同		越石新作
同	東郷村小路	吉川市太郎
同		野坂安太郎
坂井郡芦原村二面	小泉甚左ヱ門	
同	丸岡町本	道端茂藏
同	同谷	桑橋茂二
大野郡小山村下黒谷	千藤彌兵衞	
同	同	千藤與三次郎
同	同	吉田榮次郎
同		千藤與作
同		吉田石松
同		吉田民藏
同		千藤松次郎
同		笠原基
同		吉田久七

大野郡小山村下黒谷	黒田西右ヱ門	
同	村上孫藏	
同	田中庄五郎	
同	吉田德五郎	
同	長谷川仁右ヱ門	
同	吉田小之助	
同	畑中長之助	
同	上黒谷	畑中庵
同		畑中五右ヱ門
同	消防組頭	佃仁作
同	消防組第二部小頭	榊原新三郎
同	同 小頭	笹島貞作
同	同消防手	橋本仁作
同	同消防手	玉木貞一
同		第一部小頭 西川音松
同		消防手 佐々木甚之助
同		安川高三
同		福本久松
同		齊藤齊次郎
同		役場書記 玉木初
大野郡同	上荒井	澤田元榮
同	下舌	齊藤勇作
同	小學校長	宇野伊兵衛
同	下庄村中保	佐々木藤兵衛
同	上庄村稻郷	石黒一榮
同	下穴馬村朝日	三島澤井
同	坂谷村小黒見	原甚光
同	勝山町	書記 清水利作
同		定役夫 太田與市
同	芳野	多田利三郎
同	野向村	役場助役 武田六左
同	牛ヶ谷	久永與吉
同		村會議員 中村與兵衛
同		前川與吉
同	同村横倉	小學校長 堀三作
同	聖丸	藤井七松
同	横倉	平尾善八
同	聖丸	西出助松
同	鹿谷村杉俣	盡內甚之亟
同	今立郡國高村	道路定役夫 中野幸助
同		小學校長 山本牧之助

今立郡同	瓜生	館　忠右ヱ門
同　同	塚町	片岡利雄
同　同	長土呂	尾賀斗和助
同　栗田部町		加賀善太郎
同　河和田村上河内		池田房松
同　同	北中	吉本吉兵衛
丹生郡吉野村本保		青山孫作
同　萩野村細野		伊部多市
同　天津村眞栗		伊藤清
南條郡宅良村小倉谷		大久保庄左ヱ門
同　河野村河野		隅野駒吉
敦賀郡敦賀町浪花三七		大島太郎治
同　同	天滿	吉村治作
同　同		鶴島清吉
同　同	浪花	丸谷三次郎
		小杉長造

雪害水害ノ豫防救護ニ從事シ功勞アリタル團体

福井市		福井消防組
同		在鄉軍人團
同	浪花町	浪花青年團
敦賀郡敦賀町浪花		吉田清藏
同		梅本茂次郎
同　同	神樂	石塚榮藏
同　同	旭	中村万吉
同　同	津内	島田爲一
同　郡栗野村金山		花谷乙吉
同		八田儀三郎
福井市日之出下町		山本常七
吉田郡下志比村光明寺		大村與三吉
大野郡下穴馬村朝日		柳原松治
同		髙橋政吉
南條郡武生町北府村		金卷龍太郎
南條郡武生町桂區		加藤勝康
足羽郡酒生村栂野		藤井宗清
福井市若松町		髙村京一
同　石場畑方		福井公德正進會
同　豊町		福井帝國青年會
		豊青年團

足羽郡東郷村		東郷消防組
同　下字坂村		青年團
同　東郷村		在鄉軍人分會
同　社村		農業補習會員
同　酒生村荒木新保		在鄉軍人團
同　同	青年會	荒木新保支部
同　同	稻津區	在鄉軍人團
同　同	青年會	稻津支部
同　同	栂野區	在鄉軍人團
同　一乘谷村		一乘青年團
同　同	安波賀	道路保護組合
同　同	城戸ノ內	中老會
同　同	鹿俣	青年團
同　木田村		在鄉軍人分會
吉田郡松岡村		在鄉軍人分會
同　五領ヶ島村御陵		青年團
同　同		五領ヶ島消防組
同　志比谷村		在鄉軍人分會
同　下志比村法寺岡		青年團
同　同　比村谷口		青年團
同　同　光明寺		青年團
吉田郡淨法寺村		在鄉軍人分會
同　同		青年團
同　岡保村		在鄉軍人分會
同　同		青年團
同　河合村		在鄉軍人分會
同　同		青年團
同　同	吉野村	青年團
同　下志比村		在鄉軍人分會
同　五領ヶ島村		上合月勞働組合
大野郡大野町		消防組
同　上庄村寶慶寺		青年團
同　同　村		消防組第三部
同　下穴馬村		消防組第一部
同　坂谷村		青年團
同　芦見村		消防組
同　下味見村		消防組
同　上味見村		在鄉軍人分會
同　同		青年團
同　同		消防組
同　勝山町		自警團下後支隊
同　野向村		消防組

大野郡野向村	在鄉軍人分會
同	青年團
同	牛ヶ谷區民
同	橫倉區民
同	荒土村
同	青年會
同	鹿谷村
同	在鄉軍人分會
同	勝山町長淵
同	義勇消防青年團
同	荒土村
坂井郡芦原村	消防組
同	消防組
同	青年團
同	二面區民
同	北潟村
同	在鄉軍人分會
同	青年團
同	細呂木村
同	在鄉軍人分會
同	青年團
同	金津町
同	金津消防組
同	高椋村
同	在鄉軍人分會
同	春江村
同	消防組
同	大關村
同	東區々民
同	在鄉軍人分會

坂井郡木部村	在鄉軍人分會
同	青年團
同	木部消防組
同	濱四鄉村
同	在鄉軍人分會
同	鷹巢村
同	青年團
同	鶉村
同	青年訓練所
同	坪江村
同	青年會
同	劔岳村
同	鄉友會
同	竹田村
同	在鄉軍人分會
同	坪江村
同	青年團
同	鷹巢村
同	消防組
同	滘四鄉村
同	在鄉軍人分會
丹生郡豊村	青年團
同	吉野村
同	消防組
同	大虫村
同	消防組
同	青年團

丹生郡宮崎村	消防組
同	青年團
同	城崎村
同	消防組
同	殿下村
同	消防組
同	織田村
同	青年團
同	萩野村
同	消防組
同	朝日村
同	青年團
同	天津村
同	在鄉軍人分會
同	三方村
同	救護團
同	西安居村
同	青年團
同	志津村
同	青年團
同	殿下村
同	青年團
同	國見村
同	青年團
同	四ヶ浦村
同	消防組
同	城崎村
同	消防組
同	常盤村
同	在鄉軍人分會
同	青年團

丹生郡立待村	消防組
同	在鄉軍人分會
今立郡鯖江町	消防組
同	尾形一心會
同	青年團
同	國高村
同	消防組
同	青年團
同	舟津村
同	消防組
同	青年團
同	南中山村
同	消防組
同	青年團
同	栗田部町
同	在鄉軍人分會
同	河和田村
同	消防組
同	青年團
同	服間村
同	消防組
同	北中山村
同	道路保護組合
同	北中山村磯部
同	青年團
同	神明村
同	步兵第三十六聯隊
同	消防組

今立郡神明村	在鄉軍人分會	南條郡南杣山村	消防組		
同 新橫江	消防組	同 今庄村	消防組		
同 北中山村	消防組	同 河野村糠	女子消防組		
同 同	在鄉軍人分會	同 同	青年團		
同 片上村	青年團	敦賀郡敦賀町三島	青年會		
同 同	在鄉軍人分會	同 同	三島新進倶樂部		
同 上池田村	在鄉軍人分會	同 同	第十一組青年會		
同 同	青年團	同 同 境	青年會		
同 岡本村	青年團	同 同 南津内	青年團		
同 服間村	青年團	同 同 町	青年訓練所		
同 上池田村	消防組	同 粟野村	消防組第二部		
同 北新庄村	消防組	同 東浦村大比田	青年團		
同 味真野村	消防組	三方郡南西鄉村	消防組		
同 岡本村	消防組	同 北西鄉村	日向青年團		
南條郡武生町	消防組	三方郡北西鄉村早瀨	在鄉軍人團		
同 同	警團	同 同 村	消防組		
同 北日野村	蓬萊自警團	大飯郡佐分利村	在鄉軍人分會		
同 神山村	消防組	同 同	青年會		
同 王子保村	消防組				
同 南日野村	消防組				
同 北杣山村	消防組				

雪害水害ノ豫防救護ニ從事シ功勞アリタル團体調

團体名	團体所在地	團体員數	出場人員	種別	活動狀況	結果
福井消防組	福井市	二六三	四〇	水路排雪	水路ノ疏通ヲ計リ侵水ヲ防ク	減水ヲ速ニセリ
福井在鄉軍人團	同市		三八〇	營造物ノ排雪	學校等ノ屋根ノ除雪ニ從事ス	屋上墜落等ノ被害ナキヲ得タリ
福井浪花青年團	同市浪花下町	六〇	一五	公有建物ノ排雪侵水豫防	學校ノ排雪水路ノ疏通ニ從事ス	因ツテ倒壞ヲ免レ侵水家屋ヲ少ナカラシム
福井公德正進會	同市若松町	五八	四八	水路排雪消火栓堀出	侵水ノ虞アル水路ノ排雪消火栓ノ堀出ニ從事ス	侵水ヲ免レタリ
福井帝國青年會	同市石場畑方	三五	三五	同	同	同
福井豐青年團	同市豐學區內	三五	一五	住家ノ排雪	考幼婦女貧困者ノ住家ノ排雪ニ從事ス	倒壞ヲ免ル
福井高等工業校生徒	吉田郡西藤島村	五〇	五〇	同	同	同
松岡在鄉軍人分會	同 松岡村	一〇五	二五	公有建物ノ排雪	小學校カ危險ニ瀕シタルニ付屋上ノ排雪ニ努ム	同

岡保在郷軍人分會	同	岡保村	三〇	道路ノ排雪	村内ノ道路ノ排雪ニ努メ一般ノ交通便ヲ計ル	交通上支障ナキヲ得タリ
岡保青年團	同		二〇	同	同	同
河合村在郷軍人分會	同	河合村	一三九	公有建物ノ排雪	小學校其ノ他公有物ノ排雪ニ努メタリ	倒壞ヲ免ル
河合村青年團	同	河合村	一二三	同	同	同
吉野村青年團	同	吉野村	二八	道路ノ排雪	小學兒童ノ通學ヲ容易ニスル爲道路ノ排雪ニ努ム	辛シテ通學スルコトヲ得テ休業スルニ至ラザリキ
下志比村在郷軍人分會	同	下志比村	四五	同	村内ノ道路ノ排雪ニ努ム	物資ノ搬入ニ多大ノ利便ヲ受ク
淨法寺村青年團	同	淨法寺村	三八	同	同	同
五領ヶ島村上合月勞働組合	同	五領ヶ島村	四〇	水路排雪	村内水路ノ排雪ニ努ム	侵水ヲ免ル
五領ヶ島村青年團	同		二五	神社寺院ノ排雪	村内神社寺院ノ排雪ニ努ム	危險ヲ免ル
東郷村消防組	同	足羽郡東郷村	六五	侵水豫防	河川ノ排雪ニ努メ侵水ノ豫防ヲナス	侵水ヲ免ル
東郷村在郷軍人分會	同	東郷村	一三〇	同	同	同
下宇坂村青年團	同	下宇坂村	一七〇	公有建物排雪道路ノ排雪	小學校ノ屋上排雪及通路ノ排雪ニ努ム	倒壞ヲ免レ交通ノ安全ヲ得タリ
坂谷村村青年團	同	坂谷村	九	倒壞家屋ノ堀出	上記作業ニ熱心ニ活動セリ	短時日ニ全部堀出シ得タリ
芦見消防組	同	芦見村	六五	道路排雪倒壞家屋救助	同	同
下味見消防組	同	下味見村	七〇	倒壞家屋堀出救護	献身的ニ上記作業ニ從事ス	全部整理ス
上味見村在郷軍人分會	同	上味見村	四二	同	同	同
同村青年團	同		三八	同	同	同
上味見消防組	同		四〇	同	同	同
大野消防組	大野郡大野町		一八九	學校役場寺院ノ除雪	警鐘ヲ以テ召集シタルトコロ何ヲ直ニ出場上記ノ作業ニ從事ス	倒壞ヲ免ル
大野青年團	同		一五九	同	同	同
福井市足羽郡吉田郡	團体數計	二〇	出場人員數	一〇八四		

下穴馬消防組第一部	同下穴馬村	三〇	四	人命救助	崩雪ノ爲メ埋沒セル兒童ヲ救助セリ	全部ノ者ヲ救助シ得タリ		
義勇消防組青年團	同勝山町長淵	五〇	五〇	侵水豫防	水路ノ排雪ニ從事ス	侵水ヲ免ル		
野向消防組	同野向村	九〇	六九	倒壞家屋壓死者ノ堀出	二月九日、十日ノ兩日間村民ト協力シテ上記作業ニ努ム	死者全部ヲ發堀シ得タリ		
同在鄉軍人分會	同	九五	一五	同	同	同		
鹿谷消防組	同鹿谷村	九〇	六〇	公有建物ノ除雪	小學校ノ屋上ノ除雪ニ努ム	倒壞ヲ免ル		
同在鄉軍人分會	同	一〇〇	五	同	同	同		
荒土消防組	同荒土村	九〇	六〇	同	同	同		
野向村青年團	同野向村	八〇	二〇	倒壞家屋壓死者ノ堀出	二月九、十日ノ兩日間村民等ト協力シテ上記ノ作業ニ努ム	死者ヲ發堀スノ作業ニ努ム		
坪江村鄉友會	坂井郡丸岡町	三三	一六	侵水豫防	解雪ノ爲河川氾濫シタルニ付之カ排水ニ從事ス	沿岸百數十戶ニ侵水セルヲ約六十戶ノ床下侵水ニトマムルヲ得タリ		
大野郡	團體數計一五						出場人員數六八一	

春江消防組	同春江村	一九〇	九三	屋上除雪	小學校ノ屋上除雪ニ從事セリ	被害ナキヲ得タリ		
劒岳村在鄉軍人分會	同劒岳村	九〇	五〇	同	同	同		
同 青年團	同	五四	四五	同	同	同		
同 消防組	同	六五	四三	同	同	同		
竹田村在鄉軍人分會	同竹田村	四四	二三	水害豫防	竹田用水氾濫ノ爲除雪排水ニ從事ス	侵水家屋僅カ五戶ヲ出シタルニ止マル		
坪江村青年團	同坪江村	三〇	二五	屋	上排雪小學校屋上排雪ニ從事セリ	被害ナキヲ得タリ		
同 消防組	同	五一	四六	同	同	同		
大關村在鄉軍人分會	同大關村	八四	八四	道通竝公有建物ノ除雪	各區ノ連絡ヲ計リ公共建物ノ除雪ニ從事ス	交通上効果大ナリ		
鷹巢村在鄉軍人分會	同鷹巢村	八〇	七〇	同	同	同		
鵜村青年團	同鵜村	一〇〇	六〇	公有建物ノ除雪	學校役場ノ屋上除雪ニ努ム	未然ニ被害ヲ防止シ得タリ		

濱四郷村青年團	同濱四郷村	一〇七	五五	同	同	同	同
金津町青年團	同金津町	六九	六二	同	同	同	同
鷹巣村青年團	同鷹巣村	二〇〇	一八〇	公有建物ノ除雪	學校役場等ノ屋上除雪	未然ニ被害ヲ防止ス	同
金津消防組	同金津町	六九	二九	同	同	同	同
芦原消防組	同芦原村	八二	三〇	鐵道ノ除雪	鐵道線路ノ除雪ニ努ム	汽車ノ開通ヲ速ナラシム	同
鶉村年訓練所	同鶉村	五〇	三五	公有建物ノ除雪	學校役場ノ屋上ノ除雪ニ從事ス	未然ニ被害ヲ防止セリ	同
坂井郡	團体數計	一七	出場人員數九四六				
朝日消防組	丹生郡朝日村	九七	八〇	除雪（屋上）	學校役場等ノ屋上ノ除雪ニ從事ス	被害ヲ免ル	同
吉川消防組	同吉川村	六〇	六〇	同	同	同	同
豊消防組	同豊村	六〇	四〇	同	同	同	同

吉野消防組	丹生郡吉野村	一二八	一二八	倒壊家屋學校等ノ後始末	上記作業ニ從事ス		
天津村青年團	同天津村	二七〇	一五〇	道路ノ除雪	道路用水等ノ除雪ヲ爲ス	通學ヲ便ナラシム	同
同村在郷軍人分會	同	一五〇	一〇〇	同	同	同	同
救護團	同三方村	四一	三八	同	同	同	同
三方村青年團	同三方村	六二	六二	道路除雪	學校ニ通スル道路ノ除雪ニ從事ス	兒童ノ通學ヲ便ナラシム	同
西安居村青年團	同西安居村	三五	二二	同	道路ノ除雪ニ從事ス	同	同
志津村青年團	同志津村	三七	三七	同	三回ニ渉リ道路ノ除雪ヲ爲ス	同	同
殿下消防組	同殿下村	一七九	一七九	倒壊家屋ノ除雪	倒壊家屋及壓死者等ノ堀出ニ從事ス	悉ク堀出スヲ得タリ	同
殿下村青年團	同	一〇七	五〇	同	上記作業ニ從事ス	交通ヲ便ナラシム	同
國見村青年團	同國見村	五二	二三	道路除雪			

織田消防組	郡丹生 織田村	一三六	八〇	屋上除雪	公共建物ノ屋上ノ除雪ニ努ム	被害ナキヲ得タリ
同　青年團	同	一〇〇	三〇	道路ノ除雪	上記ノ作業ニ從事ス	兒童ノ通學ヲ便ナラシム
四ヶ浦村青年團	同四ヶ浦村	四八〇	二五六	屋上道路ノ除雪	公ノ建物、道路等ノ排雪ニ努ム	被害ヲ免ル
同　消防組	同	一二四	九三	同	同	同
城崎消防組	同城崎村	九六	三六	同	同	同
同　青年團	同	九五	三八	同	同	同
萩野村青年團	同萩野村	四五	三三	同	同	同
同村在鄉軍人分會	同	四五	一三	同	同	同
常盤村	同常盤村	三三	一五	同	同	同
同村青年團	同	三五	三五	同	同	同

宮崎消防組	丹生郡 宮崎村	九一	七一	屋上除雪	公共建物ノ屋上除雪ニ從事ス	同
同村青年會	同	一七〇	四八	同	同	同
立待消防組	同立待村	九七	四〇	同	同	同
立待村青年團	同	一九〇	三五	同	同	同
同村在鄉軍人分會	同	一三〇	二〇	同	同	同
大虫消防組	同大虫村	九七	五三	同、	同	同
同村青年團	同	一一三	五〇	同	同	同
白山村	同白山村	六〇六	四三〇	學校ノ屋上除雪	同校小學校ハ積雪ノ爲メ倒壞ノ虞アリシヲ以テ屋上ノ除雪ニ努ム	上記ノ活動ニ依リ倒壞ヲ免ル
丹生郡	團体數計	三二	出場人員數	一	二四〇七	
鯖江消防組	今立郡 鯖江町	一〇五	一〇五	屋上除雪	二日間ニ亘リ學校寺院ノ屋上除雪ヲ爲ス	倒壞ヲ免ル

舟津消防組	同舟津村	六五	六五	同	同	同	同
歩兵第三十六聯隊	同神明村	一、六〇〇	二二〇	同	同	同	同
神明消防組	同神明村	八五	五四	同	同	學校ノ屋上除雪ノ爲メ活動ス	同
同村在鄉軍人分會	同	一一五	二〇	同	同	同	同
新横江消防組	同新横江村	六五	六五	同	同	同	同
北中山消防組	同北中山村	一六〇	一三〇	同	同	同	同
北中山村道路保護組合	同	一八〇	一五〇	道路排雪	隣村ニ通スル道路ノ排雪ニ努ム	交通ヲ便ニス	同
北中山村在鄉軍人分會	同	一二〇	四〇	同	同	同	同
片上村青年團	同片上村	八五	八〇	屋上除雪	學校ノ屋上除雪ヲ爲ス	倒壞ヲ免ル	同
同村在鄉軍人分會	同	二五〇	五九	同	同	同	同

河和田消防組	今立部河和田村	七五	六〇	同	同	同	同
河和田村青年團	同	一八〇	一七一	同	同	同	同
粟田部町在鄉軍人分會	同粟田部町	一二〇	一二〇	除雪及水害救助	公ノ建物ノ屋上及粟田部町ノ水害豫防ニ從事ス	災害ヲ防止ス	同
南中山村同	同南中山村	七〇	五八	道路排雪	小學兒童及一般人ノ通行ノ爲メ幹線道路ノ排雪ヲナス	交通ノ安全ヲ得タリ	同
上池田村同	同上池田村	四五	四一	人命救助屋上排雪	居村定方共同水車小屋ニアワ襲來ノ際之ガ救助ニ努メタリ	老婆一人ヲ救助シ得タル	同
粟田部町青年團	同粟田部町	一〇〇	一〇〇	除雪及水害豫防	前記粟田部町在鄉軍人ニ同シ		
南中山村青年團	同南中山村	一五〇	一二一	道路排雪	同		
上池田村青年團	同上池田村	六九	四五	人命救助屋上排雪	前記上池田在鄉軍人ニ同シ		
岡本村青年團	同岡本村	三八	二五	屋上除雪水害豫防	一般人ノ家屋ニテ倒壞ノ虞アル人家ノ除雪竝水害豫防ニ從事ス		
服間村青年團	同服間村	七五	一〇	人命救助	服間村西河内ニ於ケル「アワ」襲來ノ際之カ救助ニ努ム	將ニ死セントスルモノヲ救助セリ	

栗田部消防組	今立郡栗田部町	七五	七五	除雪及水害救助	前記栗田部在郷軍人ニ同シ	
南中山消防組	同南中山村	一二九	一一一	道路屋上排雪	公共建物ノ除雪或ハ水害豫防ニ從事セリ	
上池田消防組	同上池田村	一五七	一四五	人命救助屋上除雪	前記上池田村在郷軍人ニ同シ	
北新庄消防組	同北新庄村	七一	四六	屋上除雪	公共建物ノ除雪ニ努ム	
味真野消防組	同味真野村	四一七	二〇三	同	同	
岡本消防組	同岡本村	七八	六五	屋上除雪水害豫防	公共建物ノ屋上除雪水害豫防ニ從事セリ	
服間消防組	同服間村	八五	八五	人命救助屋上除雪	西河内ニ於ヲ人命救助ニ努メ且學校役場ノ除雪ヲ爲ス	
國高村青年團	同國高村	一五五	一一五	公共建物ノ除雪	公ノ建物（學校役場等）倒壞ノ虞アルニ至リタルヲ以ヲ警鐘ヲ打チタルニ直ニ參集シ熱心ニ除雪ニ努メタリ	上記ノ活動ニ依リ被害ヲ免ル
同消防組	同	七五	七〇	同	同	
今立郡	團体數計	三〇	出場人員數	二、六五四		

武生消防組	南條郡武生町	一四八	一四〇	屋上除雪及水害豫防	小學校ノ屋上除雪及用水ノ氾濫ニ際シ之カ疏通ニ努力セリ	學校ハ無事ナルヲ得浸水ハ速ニ減水セシムルヲ得タリ
蓬萊自警團	同武生町	三二	三二	同	同	同
北日野消防組	同北日野村	一二九	八五	公ノ建物ノ除雪	小學校ノ屋上ノ除雪ニ努メタリ	被害ヲ免ル
神山消防組	同神山村	一二九	五七	同	同	同
王子保消防組	同王子保村	一二八	四〇	同	同	同
南日野消防組	同南日野村	九七	九六	屋上除雪水害豫防	小學校等ノ屋上ノ除雪並水害豫防ニ從事ス	同
北杣山消防組	同北杣山村	一二七	一一四	屋上除雪	小學校カ倒壞スル虞アリタルニ付直ニ除雪ニ努ム	同
南杣山消防組	同南杣山村	八五	四〇	屋上除雪水害豫防	小學校ノ屋上除雪用水ノ疏通ニ努メタリ	同
今庄消防組	同今庄村	八五	八一	屋上除雪	小學校ノ屋上除雪ニ努ム	同
樌女子消防組	同河野村	一六四	一六〇	屋上除雪道路ノ排雪	各戸ノ屋上ノ除雪、樞要道路ノ除雪ニ努ム	同

南條郡	團体數計	一〇	出場人員數	八四五	
敦賀町三島青年會	敦賀郡敦賀町三島	八〇	五六	道路除雪	二月五日軍旗ノ上京ニ際シ道路ノ通行杜絶セルヲ以テ除雪ニ努ム	道路ヲ開通スルヲ得タリ
同南津内青年會	同　津内	二七	二五	同	町内人家ナキ箇所ノ道路ノ排雪ヲナス	同
粟野消防組第二部	同粟野村金山	三五	二五	水害豫防	用水氾濫ニ付疏通ヲ計リタリ	水害ヲ免ル
東浦村大比田青年會支部	同東浦村大比田	四五	三五	屋上除雪	小學校ノ屋上ノ除雪ニ努ム	被害ヲ免ル
敦賀郡	團体數計	四	出場人員數	一四一		
三方郡北西郷村早瀬日向青年會	三方郡北西郷村早瀬日向	一六〇	一〇二	道路、屋上ノ除雪	縣道、寺院、學校等ノ除雪ノ爲メ出場日ヲ交代シテ活動ヲ爲ス	被害ヲ免ル
同村在郷軍人分會						
南西郷消防組	同南西郷村	三一	二〇	水害豫防	區内ノ各水路ノ流通ヲ計リタリ	浸水ヲ免ル
三方郡	團体數計	二	出場人員數計	一二二		

總計	團体數	一三〇	出場人員 八、八九〇

個人ニシテ雪害水害ノ豫防救護ニ從事シ特ニ功勞アリタル者

福井市日ノ出下町三十九番地
戸主　第三十區長　大村與三吉
文久二年生

右ハ本年一月以來ノ降積雪ニ際シテハ寢食ヲ忘レ排雪ニ努メ、殊ニ本年二月十七日福井驛附近ノ侵水ニ際シ水路ノ除雪ニ一意專心區民ヲ督シ、或ハ市當局ト協商スル等實踐躬行家事ヲ忘レテ公事ニ盡瘁シタル爲、侵水被害ヲ僅少ナラシメ除雪ノ成績見ルベキモノアリ。

吉田郡下志比村光明寺第十七號四番地
戸主　鍛冶職　柳原松治
明治二十七年七月五日生

右ハ居村ノ各道路ノ除雪ニ誠意ヲ以テ社會奉仕的ニ努力シ同村會ハ滿場一致以テ之ヲ賞讃シ居レリ

大野郡下穴馬村朝日第十七號一番地
役場吏員　三島澤井
明治二十七年八月十日生

同郡同　村朝日第十七號四番地
下穴馬消防組第一部消防手　高橋政吉
明治三十七年十一月二日生

同地ハ本年二月五日ヨリ降雪殊ニ多ク同月七日ニハ積雪七尺余ニ達シ區内各戸共倒壊ノ危險ニ頻シ區民ハ孰レモ自家ノ除雪ニ努メ他家ヲ顧ルノ余力ナカリキ、殊ニ三島ノ如キハ自家ハ腐朽ノ上積雪多量ナリシ爲倒壊ニ頻シ、家族ハ婦女子供ノミニシテ剩ヘ身ハ跛足ニシテ自家ノ除雪スラ困難ナルモノ、處、折柄同日午後六時三十分頃同區地籍コタラピ山嶽ヨリ「アワ」襲來シ山本喜之助方家族五名ハ住家ト共ニ壓倒セラレ家屋ノ下敷トナリタリトノ悲報ヲ耳ニスルヤ、前記三名ハ自ラ區民ヲ誘ヒ出シ現場ニ駈付ケ救護セムトシタルモ、他ノ區民ハ再度ノ「アワ」襲來ヲ恐レ率先救護ニ從事セムトスルモノハナカリキ、此時前記三名ハ敢然トシテ其ノ身ノ危險ヲ顧ス積雪ヲカキ分ケ屋根ノ一部ヲ破壞シ罹災者五名ヲ救ヒ出シタルモ、不幸ニシテ其ノ中一名（喜之助五男信義）ハ既ニ死亡シ居リタリト雖モ其ノ行動ヤ勇敢ニシテ一般人ノ追從ヲ許サヽモノアリ。

今立郡國高村村圖第八十二號三十五番地
道路定役夫　中野幸助
明治二十九年一月二日生

右ハ本年ノ大降雪ニ際シ自己ヲ顧ズ村營造物（建物）主要道路ノ排雪ニ關シ獻身的努力セルモノニシテ村民一般ニ感服シ居レリ。

今立郡國高村塚町第二十號二番地
精米業　片岡利雄
明治三十二年十一月三日生

右ハ本年ノ降雪ニ際シ毎朝六時ヨリ學校ニ通スル道路ノ排雪ニ努メ兒童ニ對シテハ懇ニ學校迄送リ迎ヲ爲シ其ノ他赤布ヲ以テ四十本ノ旗ヲ作リ、一般通行人ノ爲メニ道路ノ標識トナシタル等獻身的ニ公共ノ爲努力シタルハ一般ノ龜鑑トスルニ足ル。

今立郡國高村瓜生第四十三號四番地
農　館忠右衛門
明治四年十月十八日生

右ハ本年ノ大降雪ニ際シ交通ノ保全ヲ圖ル爲メ毎朝自ラ率先シ家族ハ勿論沿道區民ヲ督勵シ奉仕的ニ主要道路ノ排雪ニ努メタリ。

今立郡國高村長土呂第十二號十七番地
農　尾髙斗和助
明治十五年十一月二十九日生

右ハ本年ノ大雪ニ際シ自己ヲ不顧小學校舍、通學道路等ノ排雪ニ努力シ一面赤布ヲ以テ旗ヲ作リ路傍ノ標識トナシ以テ一般通行ノ利便ヲ圖ル等、其ノ美擧ニハ一般村民ノ感服シ居レル所ナリ。

南條郡河野村河野第二十號二十番地
漁業　隅野駒吉
明治五年十二月十八日生

右者本年ノ降雪ニ際シ自家ノ危險ヲ不顧奉仕的ニ居宇中ノ老幼婦女等ノ家屋數戸ノ屋上並宅前ノ除雪ニ努メタリ

146-277

南條郡武生町北府村第五十三號一番地
武生消防組頭　加藤勝康
明治二十年二月十二日生

本年一月二十日以來ノ大降雪ノ爲同町三小學校舍ノ屋上及町内用水路ノ除雪ノ急務ナルヲ認メ、極力人夫ノ調達ニ努メタルモ何レモ自家ノ除雪ヲ急ナリトシ之ニ應ズル者ナカリシ以ヲ自ラ率先出勤シ部下ノ消防組員ノ指導督勵ニ努メタルガ同町内用水路ハ積雪ト屋根降シ雪ノ爲其ノ積雪二丈余ニ達シ之ガ排雪ハ容易ノ業ニアラサルニ付關係區長、警察署、消防幹部ト協議シ區民ト消防組員トニヲ排雪ニ努メタルガ積雪多量ナルト川底ノ氷結トニヨリ容易ニ進渉セサリシヨリ本人ハ組員ノ勞ヲ稿フ爲メ私財ヲ以テ百余名ニ對シ酒肴料ヲ與ヘ激勵シタル結果其ノ目的通リ開通スルコトヲ得タリ、尚其ノ他屍無川氾濫ノ際等モ率先救護ニ從事シ自ラ活動ヲ爲スコト實ニ二十余日ニ及ビ此ノ間ノ獻身的努力ニハ消防組員ハ勿論一般民ノ齊シク敬服セシ處ニシテ衆ノ龜鑑タリ。

南條郡武生町柱區第十六番地
武生消防組小頭　藤井宗清
明治二五年六月五日生

右者商業ノ傍ラ郵便局ノ事務ヲ取扱ヒ居リ頗ル多忙ナル身ナルガ、本年一月二十日以來ノ大降雪ニ際シ能ク消防組員ヲ指導シ學校、町内用水路等ノ除雪並ニ浸水家屋ノ住民救護等ニ私事ヲ顧ズ二十數日ニ渉リ獻身的努力ヲ爲シタリ。

昭和三年三月二十日印刷
昭和三年三月二十四日發行

福井縣

印刷人　福井市城町三ノ丸五番地　河合仁太郎
印刷所　福井市城町三ノ丸五番地　河合活版印刷部
電話八五七番